大正四年十月一日發行大正四年
明治卅七年五月七日第三種郵便

女子青年界

第十二巻第九號

要目

女子青年會第十二巻第九號

目次

YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume XII　　October, 1915　　Number 9

新會館落成

●開館披露週間●

自十月十八日(月)至同二十三日(土)　一週間

會館位置　東京市神田區北神保町十四番地

新築會館落成につき十月十八日より同二十三日に至る七日間を開館披露週間として同週間內は何れの日に限らず普ねく內外の紳士淑女の來館を懇望仕候

又左の日割により特別集會を相催申候

十八日(月)午後　開館式
二十日(水)午後　各教會及婦人團體招待
二十三日(土)午後　女子學生招待
同　日　夜　有職婦人招待

大正四年十月

東京基督教女子青年會

尚開館と同時に三階寄宿舍をも開始し入舍申込を受け候又左記の各組を開始し教授致すべく候間希望の方は御申込被下度候

聖書の組　和洋料理の組　裁縫の組　生花の組
音樂の組　英語の組　體操の組

（詳細は新會館又は麴町三番町四一本會事務所につき御問合せ被下度候）

御大典に因める
新意匠の
御半ゑり類
種々取揃へ申候

神田一ツ橋通
二京商店

AMERICAN BIBLE SOCIETY
TELEGRAPHIC ADDRESS "BIBLES YOKOHAMA

□詩篇付新約全書□

四號新約全書詩篇付	折皮金緣	一圓六十五錢
同 同	折皮マーブル	一圓三十五錢
同 同	脊皮	七十五錢
同 同	總金巾	五十五錢
六號小形引照新約全書詩篇付	インデア、ペーパー特製一枚折皮金緣	一圓六十錢
同 同	上製折皮金緣	一圓三十錢
同 同	上製總皮金緣	一圓十錢
同 同	折皮金緣	九十錢
同 同	總金巾	三十五錢
袖珍新約全書詩篇付	上製折皮金緣	九十錢
同 同	上製總皮金緣	七十五錢
同 同	總皮金緣差込付	六十錢
同 同	總皮	三十錢
同 同	總金巾	二十五錢
六號小形新約全書詩篇付薄手	インデア、ペーパー特製一枚折皮金緣	一圓二十錢
同 同 同	上製折皮金緣	九十錢
同 同 同	一枚折皮金緣	八十錢
同 同 同	總皮金緣	六十錢
ローマ字綴新約全書詩篇付	一枚折皮金緣	一圓五十錢
同 同	總皮金緣	一圓二十錢
同 同	總金巾	六十錢

□定價目錄御申越次第進呈

各國語聖書發賣所
橫濱市山下町五十三番
米國聖書會社
振替貯金口座 東京 壹八四壹〇番

野口精子著…………

歌集
夕ばえ

■我胸に神の宮居のなる日まで工匠(たくみ)の業をなほつづけまし

■やまの火はよこになびきて紫す天女髪引く夕ばえのそら

歌集「夕ばえ」は野口氏の處女出版にして、壹千有餘の作中より會心のものを自選せられたものであります。その數すべて六百首。裝幀は内容にふさはしき優しさと美しさと、あくまで清高に、芳烈に………げに夕ばえの雲のかゞやきにも似たらむ。この歌集は、抑々何を暗示し、如何なる響きを傳へるでせうか。

三六判函入美本

■定價金七拾錢　郵稅金八錢

版元　警醒社書店

東京市京橋區尾張町二丁目

振替番號東京五五參番

會説

新會館の落成に際して

東京女子青年會々長　新渡戸まり子

今回東京市神田區北神保町十四番地に其の建築に着手致しました東京基督教女子青年會新會館が、其の内部諸器具の備付けを除くの外は、全部其工事を完成する事の出來ました事は、當女子青年會の會員諸姉のため委員及幹事一同の皆大いに喜び且感謝に堪ざる所であります。私共幹部一同は今日の早く來らん事を切實に期待し、且尚一層高尚なる又希望に充ちた生涯に若き者をも老いた者をも入らしむるやう鼓舞し導くに有用なる種々の働をなす上に於ても多くの好機會の得られん事を信じて、私共の心は感謝に充ちて居りました。該建築は我國及英米の多數の友人同情者方の賜物であります。而して私共の此等の考へを一層深き處に及ぼす時は吾々の興味或は願望は此世界に於ける私共のみの狹隘なる一隅に偏すべきものでなく、もつと廣く擴張さるべきものである事を感ずるに至るを示して居ります。

該新會館内に於ける聖書研究及英語の組等は、舊のまゝ之を繼續いたします、私共はこれらの大いに大切なる事を信じ、又其の數に於ても其實質に於ても、益々增進發展せしめん事を心掛けて居ります

然し私共は唯以前のまゝの仕事の範圍では滿足する事が出來ません、愈これを擴張し、複雜ならんを期して居ります。この際、私共は他の若き婦人達＝學生或は種々の職業に從事せらるゝ人々のため、既に本會々員たる皆樣の、溫情ある御助力を仰ぎたく、切に希望致すものであります。三階に於ける種々の教室、委員室等の他に、二階には瀟洒たる應接室、圖書室及來客室等があります、私共はこれらの部屋々々に勉強のため或は娛樂のために集まられる若き婦人達の愉快なる集會を見ん事を望んで居ります。

　私共は皆此の魂や心のみが如何に向上發達するも若し身體が虛弱でこれに伴ふ同一の發達を遂げる事が出來なければ、人間として完全なものとは云はれず、一種の不具者であると云つても差支へなき事を熟知して居ります。而して尙心の大切なる事、其價値の尊き事等はよく人口に膾炙致します（精神及人格は智識よりも尊きものとし、智識は單の肉體的問題よりも大切であると）と同時に、私共は健康なる身體は其の精神をも助け、其精神は靈的生活にいたるの健全鞏固なる通路である事を知つて居ります。しかし從來は設備不完全なりしため本會の目的を十分に遂行せんとする私共の努力も、屢々阻碍された事を感じて居ります。然し今回新會館を得たるに於ては、必ずや、より以上の有効なる何等かの働きをなし、尙此等の方面をも完全ならしめんため、私共の意も精神もこれを十分に開き得る事と信じて居ります。即ち階下には心地よき體操場の設があつて、此處に體操を受持たるゝミス、マクローイは體育科に加はる事を望まるる諸姉妹の申込に對して準備して居られます。其上には優に十六人の若き婦人を收容し得る淸潔爽快なる寄宿舍があります。又家事科教授の設備もあつて、ミス、カフマンは右教授の任に當つて居られます、而してこれがため使用さるゝ模範的臺所及食堂は誠に心目を惹くにたるべきものであります。

　私は多くの形容詞を用ゐて右新會館を吹聽しやう

とは思ひません。唯皆様が親しく新會館に來つて實際に就て視察せられん事を希望致します。そして十月十八日より一週間の間午後より右新築落成披露の祝會を催します。而して誰でもこれに興味を有せらるゝ方を歡迎して、且、二十三日の二時より四時までの間若き婦人、女子學生、會員其他右靑年會に出しても關係を有せらるゝ方々のため特別招待會を開きます。尚同日午後六時より八時までの間商店及會社事務所等に務めらるゝ婦人方を招待せんと望んで居ります。私共は皆様が御友人方を御誘ひ合せ御同伴のほどを切に希望し且又皆様がより多くの機會を以て、この事業を十分に發展せしむるため厚き援助を與へられんことを懇願する次第であります。

終りに當女子靑年會がかほどの發展を致し得るに至るまで同情と助力を與へられし方々に對し厚く厚く感謝するに其辭を知らないのであります。

犧牲

人間の進歩の絶頂は、その趣味の純潔、その思想の明透、その判斷の圓熟、その意思の堅實によつて知ることが出來やうと或人は云つた。自分が絶高と思ふ人は、以上に加へて、彼が大望を殆ど達し得んとする時、或は達し得たとき、凡て此世の望の眞價を知つて、その精力を奉仕と犧牲とに轉ずる人である。

艱難

艱難は、神の僕等が知慧を敎へられる學校であると屢云はるゝ。罪の害毒、此世の虚榮、肉の腕の弱く且覺束なきこと、此等は凡て耳で聽て幾分わかる事柄であるが、然し艱難といふ仲立を通してはじめて心眼で見るものである。

敎養

敎養とは全き發達を意味する。人の智が絶えず研究と思想とに由つて、發達しても、彼の心が冷淡で不親切ならば、また彼の魂が氣隨ならば、彼は敎養されて居ないのである。彼はその天性の最高處に達せぬ鄙人である。敎養とは、各方面の圓滿に平均した發達を云ふものである。

（松榮譯）

基督教生活

柏井園

一

基督教生活と云ふ題は平凡な題ではあるが、話すのはなか／＼むづかしい。系統的に其動機、精神、特色と云ふやうな事を話せば餘程難しい。それよりも聖書に基づきて基督教生活のある側面を御話した方が仕易く、却て又參考ともならうと思ひます。此頃生活と云ふ事は世間の人の喧しく云ふ事で、基督教徒ばかりでない。彼等から受くる色々の益もあるが、それらの事は別として、基督教生活の源なる聖書にいかなる事が敎へてあるかを知らねばならぬ。

私は先日からヘブル書を研究し、講義などをやつて一番深く頭に入つて居るから、自然それから引照する事が多くなるでありませう。

第一基督教生活は目に見えない事を信じて生活する處のものである。この意味が好く現はれて居るのはヘブル書十一章一節である。それと同じやうな事がペテロ前書一章の八節『爾曹イエスを見ざれども之を愛し今見ずと云へども信じて喜ぶ、其快樂は言がたく且榮光あり。』コリント後書四章の十八節『我儕が顧る所は見る所の者に非ず、見ざる所のもの也。』五章七節に『蓋しわれら見る所によらず、信仰によりて歩めばなり。』ヨハネ傳二十章三十九節『爾われを見しに因りて信ず、見ずして信ずるものは福なり。』これらの處に於て常に信仰の對照は目に見えないものであると云ふ事が明らかである。これはひとり宗教ばかりでない、科學の進歩もこれ亦同じで、人の目に見る事の出來なかつた力を發見し利用することによつて進歩が生じ發明が出來る。美術も又普

通の人の目に見えぬ美を見出し、普通の人が感じえない處を見て、立派な藝術が出來る。この幻を現實にあらはそうとして種々の事が出來るのであります。ラスキンは人の最も高尙な事は知る事よりも見る事なりと云つて居ります。私はこの二三日前輕井澤で或る人と歩いて居つて、其あたりの森や高原の内に美しい景色を見ましたが、古の人には嵐山の花、姨捨の月とかと美しき處がきまつて居て、小さな小川や山を美しいとは思つて居なかつた。千年來この美しい處を閑却して、始終人のみて居る處にある美は目をとしてこれを見なかつたが、泰西文學が輸入されてから、其力によつて見るに至つたのである。人間は割合に盲目である。又面白い事は肉眼が閉ぢたため、内なる目があいたと云ふ事が屢々ある。斯く精神の目が開けて内に信仰がやどりては非常に變るものであります。キリストの山上の變貌の如きはこの一例であります。日々する仕事の苦しさもことなづて出來ます。この幻を見る力は性格に依つて異るもので、ある人は靜觀瞑想に傾き、或る人は活動的に幻を畫く人もあります。何れにせよ信仰によれる望によつて新らしき天地がわかる。こゝに喜びがあつて此處で靈的賜物を受けて喜びにある人も、喜ぶが未だ十分に味はひえない人もあるが、何れにせよこゝにはないが、歸へつてから、「かくしやう、かくならう」と云ふ事を考ふれば嬉しくない人はない、小供が撮つた寫眞の出來るのを喜ぶやうに各々われ〳〵は自分の心の中にあるものを寫眞にとる事が出來るとすれば、心躍らすには居られない。

二

第二に基督敎者の生活は巡禮者の生活である、べブル書十一章十三節に「此等は皆信仰を懷きて死り未だ約束の者を受けざりしが遙かに之を望みて喜び地にありては自ら賓旅なり寄寓者なりと言へり。」これはアブラハムの事より話し始まつて居るが創世記二十三章の四節に自分の妻サラが死にし時、自分は旅人なるが妻を葬むる處を與へよと云つて居ります

ペテロ前書二章十一節に『愛する者よ我爾儕に勸む汝等は旅人又寄寓者なれば靈魂に逆ひて戰ふ肉の慾を去るべし。』とあります。旅人は Stranger（外國人）寄寓者 Pilgrim などとあります。基督教信者は人生に於ては旅人で巡禮者であります。惡るい意味から云へば旅人は無責任である、旅の恥はかきずてなどと云ふ嫌やな事があるが、然し身輕るでいゝ、又一つ處に執着せず前進するものである。基督教徒の志は前途にあつて、この人生は旅である、トラピストのやうな修行者の考ではこの世で傳道、社會事業と云ふやうなものをする暇なく、吾々はこの魂を守つて神の御座まで持つて行くのでもやつとの事であると云ふ。これは間違つた考へであるけれど、又此處に餘程眞理がある。この神より受けし靈魂を惡に染ませず、清くたもつと云ふ事で吾々は警醒される。吾々は旅人、巡禮者である故この世では淡泊で慾の少ない生活を送くるべき事は一致する處であるアリスフリーマン、パーマーと云ふ婦人が結婚後シカゴ大學から多額の俸給で招聘されたが、上品な學問的空氣のみちて居るケンブリッヂの土地より離れる事を好まずしてそれを退け、僅かの月俸にて暮し非常な學者であるが學校にも出でず、パンを上手に燒く事を以て滿足して暮したと云ふ事でありますがこれ基督教者のなすべき處であります。

ヘブル書十三章五節に『汝等世を渡るに貪ることをせず有ところを以て足りとせよ』基督教の中にはかゝる空氣が必要である。物質上の快樂、金錢の慾等、あしき事を聞き見るのであるが、或る程度まではこれを拒みて、清き精神的の生活をなすべきであります、これ巡禮者である、ペテロの云へる如く肉の慾に戰ひ行くは當り前である。思想の生活亦さうである、一つの靈場から他の靈場に行つて安着しない。信仰の巡禮者である、トルストイ、ウオターペーター、ニウマン、アミイルの四人の評論をかいた著者はこの四人の内に迷へる人もあり、又目的の地に着した人もあるが、皆尋ねあるいて居る。人間の

日常生活にもいろ〳〵の事がある。或は色々工夫を凝らして見たり、或は自分の肌に合はない樣に思はれる事もある。私は四年京都に學生生活をした事があるが、京都の景色、空氣もいゝが何だか私にあはず、何處か合ふ處はないかと思つたが、東京にきてその欠乏を充たされたと思つた。又空氣の乾燥せる大西洋の沿岸に行つて、尙よく合ふ事を感じました、精神に於ても同じである、結構だが未だこれよりも好い處はないかと故里を求めて居る、十四節に『如此いふ者は家鄕をたづぬる事を表す也』とある諸姉妹の內には故里に歸へる人もあらうが、東京の中央に育ちし人は故里と云ふ感じはないが、田舍からきて居る者は其故里には兩親があり、家族があつて親しい落ち付いた氣分になり、自分の靈魂につく樣に感ぜられる。精神の故里は肉體の故里にはえられない。肉體の故里では度々旅人である。靈魂の故靈は前途にあつて、未だ旅をしなければならぬ。大學のケーベル教授の話をきいたが——大層面白く思つた、教授はロシヤに生れ、ドイツに育ち、殆ど獨乙人であるが、此度大學を辭して歸へらうとせしが戰爭のため、ロシヤの領事館に留つて居らるゝが、彼れには妻子なく眞の巡禮者である、貴君は淋しくはないかと問へば、私の故里は天にある、私は何處にも家をもつて居ない、さすらい人であると答へると聞く。日本に來て居る外國人の內で、外國人らしい感じのしない人である。卽ち世界中の住民であるこれは横道に入つたが、吾々は巡禮者であつてももう少し好い美しい、そうして靈魂にピタと逢ふ處に行くにあらざれば止まず、安着せずと云ふ意氣込をもち、天路歷程の中にある人の樣に進まねばならない。今日の人はタゴールが入ればこれをよみ、ニーチエがくればこれを耽讀すると云ふ有樣であるが、かゝる輕薄な事ではいけない、もつと高く深き意味から行くべきである、又決して行もどりをなすべからず、十五節に『彼等もしその出でし地を念はゞ歸へるべきの機ありしなるべし』とあるが如し。

信仰は始めから難しい處に行く事は出來ぬ、易しき處より行くべきである、ヘブル書五章十一節にある如く諸姉妹はもう餘程堅きものを食べらるゝのに何時までも乳を呑んで居るからいけない。何時も滋養、消化の物のみを食べて居てはいけない。不消化のものをも食すべしと、近頃のある新聞にありましたが、これは實際で子供などでも同じである。若しなんでも食べさせて置かなければ、旅行などに行くとすぐ病氣になり易いものである。求道者には單純な事をのべねばならないが、何時もさうしてをれば進歩せず、それがため聖書も難かしい處から研究し又消化の出來ない事をも敎へる必要がある。愛とせず義から出た敎へを味はねばならぬと敎へて居るが然らば落付きなく、もつと神の懐におちついて抱かれ度いと云ふ感じが生ずるものである。巡禮者の中にも信仰のない者もある。信仰ある者は自ら違ふヘブル書四章十一節に『是故に彼等の如き不信仰に倣ひて陷ざるやうわれらこの安息に入らんことをはげむべし。』とあります。

三

されど基督敎生活は落付きを得、安心を得る生活である。吾々が旅をする時にも、ある所まで行けば汽車があり、又舟があつて努力なしに目的の地に行く事が出來る。停車場に行き汽車に乘つてそれにさへまかせて行けば努力なしに行く事が出來るやうにキリストに任かせて賴り行けば大船に乘りし如く河を下る事が出來る、かう云へば抽象的には矛盾する樣なれ共實は一致して居る。努力と信賴、自重と謙遜、この世を超越して、この世と共にある、これ基督敎中に含まれて居る事で一致して矛盾でない。難しく云へば基督敎は究極的の敎へである、基督敎の信仰は進歩する新らしい信仰で、新らしい神學が出來、古きはなくなりますが、ヨハネやポーロの書ましたものはいつまでも新らしい、これは終りまで達して居るからである。これ故里の如き落ち付きと滿足を感んずる。ヘブル書七章の二十四節『然どイエ

スは窮なく存るが故にかはる事なき祭司の職を有てり。」これを委しく云へばなか〳〵むづかしいが、この中に三つの大切な事がある。第一キリストは罪なき祭司の長なる故に罪をも救ふ事が出來る。普通の祭司は年毎に同じ事をくりかへし鳥や獸を捧げるがキリストは一度十字架にかゝり自分自身を捧げた、依つて全世界を救ひこれより高いあがめはない。これから救があるのではなく、既にキリストが救ひ給ふた、これは度々繰り返すのでなく、唯一度にて己を捧げたキリストの事業がこれであるから、われわれもかくなすべきであります。吾等は最早やすくはれたものであるから、段々救はれつゝあるもので又教育されつゝあつて、幼稚なる信者なれ共、又ある意味から云へばすでに救はれて大船にのつて港についたものである。進步はあるが落ち付いて進行が出來る、生涯に繰り返しはいらない、唯進步がある、この進步は神に自分の身を與へ捧げる事である。キリストは御自分の身をさゝげられた故、私共も自分の身をきよめさゝげねばならない、即ち献身である。これは誠に大切な事で唯一度でいゝ。ヘブル書十章十一節より十三節『諸の祭司は日每に立ちて奉事をなし、些か罪を除くこと能はざる同じ犧牲をしばしば献ぐ。然ど此人は一度罪のために一つの犧牲をさゝげて限りなき神の右に座す』十九節に『この故に兄弟よ我等イエスの血によりて其われらのために開きたる新らしき生路より幔なる其肉體を通り憚からずして至聖所に入るを得。』もうわれ〳〵は神に救はれたるもの、恵の內にあるものなる故、うたがはず、より聖く己をキリストに捧げる、この聖き事が基督教の大切なる事である。他のポーロの手紙を引ひても同じ根本の思想はこの聖き事で、これがなければ基督教は無意味のものになる。神に捧げる意味に於て聖い。

四

斯く考へて、ヘブル書は考へが學者的で、思想整然一貫して居る。然し人には欠點があるものである

ヘブル書は思想整然たる處はすぐれて居るが、個人的感激と云ふ點には缺けて居る。個人的にキリストに接し感ずると云ふ處はないでもないが、バウロより劣つて居る、コリント書等によくあらはれて居る。

此處を掃除するのは役目だからと云ふ義務の觀念も好いが、又來客があるからすると云ふ方が義務の觀念よりも美しい、勉强でも亦同じ。クリストがかくしたから自分もすると云ふのでなく、クリストを喜ばせるためにすると云ふ愛の心からが必要であるコリント後書五章九節に『我等身に居りても身を離れても彼の心に適んことを勉む』とある。エスの心にかなふやうに、エスの與へた理想にかなう樣にと云ふのみでは未だ冷かである、キリストに喜んで頂く、こゝに美しい處がある、この花でも置くべきであるからでなく、見る人の目を喜ばしむるために置くのでなければならぬ。キリストが喜び給ふ故自分を捧げると云ふので始めて溫かくなり、燃えてくるのである。かく云ふ事は容易であるがこの理想の實行はなか〳〵難しい。この生活を破壞しやうとするものが多い。これをやめさせ平凡な方法にしやうとするものがある、又基督教生活をせんとするが世間ではこれをやめさせ、惡魔の生活、異教的生活に移らうとして居る。又質素な單純な生活をしやうとしても金持ちが跋扈してをる、謙遜にしやうとしても驕慢なものが人に認めらるゝと云ふ有樣で、キリストに身を捧げんとしても他のものに捧げしめやうとするのが多い、コーパデイスと云ふ小說の中には純潔なる基督敎的一少女が異教を代表せるローマの武士を感化せる事があるが、吾々の靈魂は花園の如く培ひやしなふてキリストに持ち行くべきであるが、又武裝して世の罪惡の跋扈せる中にまけないやうに戰ひ行くべきである。この基督教生活の理想を明かにし、且他にも及ぼし度いと思ふ。

良心の信仰

博士　鵜澤聰明

吾々は宗教生活に入つて居ると實に色々な問題に遭遇する。殊に今日に於ては何人もが、それに捉はれて居るのである。即ち基督教國として又先進國として尊敬して居つた歐洲諸國には大戰爭が開かれて居る。平和の大問題が出來上つたと思つて居る時にこんな戰爭になつて、平和論は希望論として祭り上げられて了つた。實際の世の中は然かく淺薄な平和を許すものではないのではないか？　大は小を合せ强は弱を食するのが人類の自然の成り行きではないか？　人生等と云ふ所では大なる安心や希望は得られないのではないか？　少しでも考へる人ならば此所で人生がつまらなくなるのである。私は日本からも此の種の大厭世家が出て天下の凡てを疑ひ一切を否定する樣になりさうなものと待つて居るのである勿論日本に無い事はない、近頃頻りに聞く青年自殺者は此の種の人なのである。只其思想を發表し得ず迷つて進み得ず、やがて生を斷つに至つたのである如何にも今日の樣に青年が煩悶し神の存在に對して疑を抱く時代はない。何故に人類はかく苦まねばならぬか。神の惠の下に生んと欲しても得られないのは何故か。眞面目なる青年はかゝる實際問題に觸れる度に人世觀を考へ直すのである。かくて其解決の得られない時は去るのである、此の戰爭と人世問題との不可解に原因する厭世觀は只今では青年女子にも及んで居る、此の事實は新紙によつて已に御承知の事と思ふが實に重大な事である、而して今日の狀態ではかくなるが一見當然な樣である、考へある人は厭世家にならねばならぬ樣である、所が此所に忘

れてはならぬ事がある、今日の此の現象は凡て神ある國に於ての現はれであると云ふ事である。大戰爭の結果或は世界の思想上には大變化が生ずるかも知れん。空前の大戰爭を經驗した事は不幸であつたかも知れぬ。悲しむべき多くの事實を現出したかも知れん又殆んど一切の文明は破壞されたかも知れん。然し神なる國に於ての現はれであるが故に、ビクともしない。神の敎のみは、いよ〳〵強く將來の世を支配して行くべきものと信じて疑はないのである。彼の青年等にして若し此の信仰があつたならば死に迄走りは爲なかつたらうに。吾人は今日の樣な世に處して初めて信仰の効の大なるを悟つたものである。今吾々は諸大國が大戰爭を爲しつゝも信用に由つて撓みなき耐久力を現はして居る事實に驚かされて居る。破壞さるべき所が持續されて居るのは信仰の力である。かく信仰は力強きものなりとして其信仰は何に對しての信仰が自然に對する信仰、學問に對する信仰、いづれも良し、更に佛敎、神道結構である。しかし眞に目下の大切なる人生問題を解決し去り荒天地に麗かなる光を投げ出し得るものは基督敎を措いては無いと私は斷言する。他宗敎と基督敎との相違も亦實に此所にあると信ずる。我が鎌倉時代は戰爭の爲めにあつた樣な時代であつた。それ故此時代に出た文學は凡て今日ありて明日は別らぬ人生の賴み無さ許り描いて居る方丈記など繙いて御覽になつてもすぐ分る。かゝる世を救はんとして佛敎は何と說いたか？　浮き世は假りの世望なし賴みなし故に宜しく脫すべし。之れ立派な厭世趣味の信仰である。しかしそれでは人生の大問題を解決するに餘りにプーアであつた、其證據には引續いて日蓮を出したではないか？　今日の歐洲大戰爭のあとに鎌倉時代の日蓮否更に偉大なる力を以て永遠に全世界を支配し發達せしめて行くべきものは何であるか？　云ふ迄も無く、神である基督である。愛の力であるこれらを認むる信仰であるといふ、所で正直な所かく知り得た丈では未だ人生はつまらなく見える、長

く生きて此の世は百年、單純な假定の信仰で眞の永遠の問題がどうして解けやう卑近な例が子が母に離れると泣く此の時にドンナ雄辯家が來て母に逢ふの道を説いたつて聞くものぢやない。理窟では行かぬ只一つの方法は母の顏を見せる事であるそれで解決が付く。吾々は今慈悲ある神の御顏から餘りに遠く離れて居る。神を得ずして劍を得て居る。パンを求めて石を與へられて居る。『かくすれば母の許に行かれるよ』との理屈を聞かされて居る。しかし私どもには、どれも必要でない、只神を見ればよいのである基督を見ればよいのである。

　宗敎と云ふ言葉で統括され得るものであるならば其各宗敎はドレも似通つたものである。相互では自己を主として他を排斥するけれども必ず各宗敎の間に共通の一貫したあるものを見出すのである。何か？良心の命ずる所に從ふといふ事である。ルーテルは「我は良心に反して何事もなし得ず」と云つて居る一切の宗敎が其人の良心に許されて居ればよろしい。信じてなほ迷ふ時には敎へらるゝ所と良心の思はくとを照し合せて見るがよい。かくて若し相容れない樣であれば止める。古い說かも知れないが自己の立場を保護するものはどうしても良心である。これがあればこそ神も見え、基督も知り得るのである一時良心は文明の人にのみあつて野蠻人にはないものゝ樣に云はれた事もあつたが、よく研究して見ると人間と他の動物との相違が其の存否にあつて人間そのものには誰れ彼れの別なく皆大小無いものはないのである。この良心の命ずる所に進む信仰が最も確かな信仰なのである。尤も此の考へは佛敎にもあれば神道にもある。しかし眞に良心の命ずる宗敎は基督敎の他にない。自分は此の頃神道の事が知りたいと思つて或る人に就き、次の樣な話を得た。

『宇宙には「直靈」「和魂」「荒魂」なる三靈があつてこれが統一されて萬物が成るのである。而してこの中直靈は最も力あるものであつてこれの強き者が神と成り少き者が下等なるものとなるである』

と考へて見ると直靈はスピリットに和魂はソウルに最後の荒魂はバデイに相當しさうである。兎に角靈の集合を以て說く所は面白いと思つた。如何に神を信じても神の靈に滿されないならば何にもならぬ。形式は何でもよろしい、只ホーリースピリット神道の所謂直靈に支配されねばならぬ吾人の所謂良心亦これに他ならぬのである。所が此の良心は動もすれば眠る、其時は神から離れるのである、吾人の魂はエヂプトの奴隷の樣である。虛榮とか贅澤とか奢りとかに捉はれて居つて動かれない。早くモーセの樣な覺悟を以て自由な國へ出なければならぬ。早くエヂプトを去つて天の國を建てねばならぬ。天國に住めば――今からでも初められる――こゝに平和もあり希望も祝福もある、一切萬物空であると說く佛敎では其の空に達し得られるかどうか分らぬ。禪の奧義は案山子と問答が出來たり、片手で音聲が出せたり、生れぬ前を見て來られたりするに在るさうである。けれども案山子と話の出來るのが最上であつては心細いぢやないか？　私どもは神と話がしたい。私は二十年以上も信じて居るが未だ眞に明白に昔の豫言者の樣に熱狂して國を救ふ位にまで神を見得た事は一度もない。信仰の弱さを悔りて居るものである。しかしやがては達し得られるものと信じて居る吾人は元より價なきものである。それでも尙ほ神と語り得ると信ずる事の出來るのは何たる幸であらう。特權であらう、此の世のつまらない事は佛敎が云つて吳れる。汚れを拂へとは神道が引き受けて居る。基督敎勿論誡めよとは云はない。が只良心の私語を聞き、神の命を聞いて各人の趣場を趨せよと云ふのである。この趣場に行く事はむづかしい事ではないか律法なくして行かれるとは聖書に出てない。十字架にかゝり給ふた主は律法に由つてゞあつた。ユダヤの律法に於てはそれが當然であつた。ソクラテースは靑年のために眞理を說いて其國の當然の刑に服した。之は人間の判斷の誤りの立證であるが、誤りたる判斷に由つて血を流し給ふた主に由りて深

い意味を敎へられざるを得ない。「汝十字架にかゝれ」との命を受けて直ちに服するには餘程良心の力が強く無くつては出來ない。此世の惡魔に勝つ力は十字架である。戰爭も十字架である。十字架ばかり見て十字架に勝つた人を見ないと煩悶する。主は十字架に勝れた。勝つて吾人を救はれた。かく成る順序として、吾人は良心に力を置いて進まねばならぬ良心を眠らせぬ様に聖書も讀まねばならぬ。眞面目に考へもせねばならぬ。深呼吸もよいかも知れぬ。精神統一も結構である。けれども是等の事で人生問題の解決が着くと思つては餘りに早計である。吾々は神の聲を聞くべく靜かなる祈りの時を取らねばならぬ。祈りに由つてのみ吾々の信仰は潔められ強められ良心は明かにされて行くのである。

米國土産

加藤高子

在米中に感じた事といへば種々ある中にも、特に嬉しく思つたこと又皆様の御參考にもなるかと思ふことの二三を申上げて見たいと思ひます。

第一米國で感じましたのは一般に米國人が外國人に對し親切な事及び他人の人格を重んずる事でしたこれは如何にも幾百年間經て築き上げた基督敎道德の御蔭と存じました。私は幸に立派な、信仰のある人格の高い方々に接する折の多くあつた事、且又其の様な御友達を與へられたのを悦んで居ります。そして其の人達のなさる親切さは一時的のものでなく本氣で然かも長續きが致します様です。大きな神の國と云ふ事が念頭にありますからでせうか、コセコセして國嫌ひなど致しませず、打ち解けて嫌味なく随分よく外國からの學生等を世話されます。私はよく日本に來る支那留學生等に對する私共の態度如何などと反省し恥しく思ふ事がありました。『旅人を懇にせよ』など云ふ事は直ぐ事實に現はれて居りまして、私共學生から見ましては、何所に日米問題の騷ぎなどあるかと思ふ様でありました。或るクリスマ

スの休みに私は一人の友と一緒に或る家庭に招待を受けて二三日宿りて參りました。其の時日曜日に敎會に參りましたら、其の敎會の主なる二三人の會員等各自が支那女學生を一人づゝ連れて出席されて居りましたので、不思議に思ひ其の理由を伺ひましたするとそれは近頃澤山の留學生が遙々米國に來て、多年勉學を積み、種々の文明に接しは致しますが、大切な精神の方が御留守になつて、極端なのは在米中一度も信者に會はず、キリスト敎の話を聞いた事がないなど申しますので心ある人達は大層殘念に思ひ、恥辱を感じて如何がなしたいと云ふ結果の一として土曜日より月曜日にかけてとか、又は或休暇を利用して、在米中の外國學生を一人二人づゝ手分けをして招待し、家族の一人として靜養させ又は慰籍して、知らず／＼の中にキリスト敎の感化を及ぼし靈的方面を充實させたいと云ふ擧にあるそうであります。

米國に行かれし方は誰でも御感じの通り、婦人が一致協力してよく活動する事を私も犇々感じました政府や官立のものもですが個人又は私立經營の社會事業等が數多くあつて立派な成績を擧げて居ります斯樣な處では澤山の婦人が學問と立派な見識及び緻密な事務的才能を以て諄々として働いて居ります。婦人のみの手にて經營されて居る團體事業等も多くあつて有力なもので御座います。適當な人材も多くあれば、萬端其の方面の研究も積み、機關の設備も完全し、其の計畫と云ひ爲る事と云ひ唯々實に大きいと云ふよりない深い印象を與へられました。會の組織、政治の工合などなか／＼一步も男子の方々に讓つては居りません。斯く立派な指導者と澤山の働き人があります事を見て轉た羨望に堪えませんでした。それについても一つの大に感心致しました事は或青年會の小さい一つの聖書の組に招かれて出席致しました。其の組は十二三人のものでしたが整然と組織立つて、それ／＼の役員即ち組長、書記會計がありました、人の種類はと申せば皆家婢や小店に働

く小學校教育もあるかなきかの靑年女子でありました。其時講義前に何か協議すべき件が二三ありまして、組長は左樣な場合に用ゆる一定の言葉、例へば「贊成」「不贊成」「異議ある人」「右可決」と云ふ樣な事を明白に知り、又規則などに關する智識などもあつて、どし〳〵事をきめて、事務を進行させて行きました。其遣方が共和的で、又皆の意見を入れて小さいなから公平に事を處置する處など流石はと思ひました。私の友達の一人が其の組を受持つて居りましたが、二三度以前に協議の仕方言葉使ひ規則などを敎へてやつたが今日は大變甘くやつたと申して居りました。其他まだ〳〵色々よい點は澤山御座いますが同時に又隨分「ハテナ」と思ふ惡い點も少なくはありません。個人としてはほんとうに沈思默考と云ふ樣な事を夢經驗した事のないもの、從つて靈的に充實したキリスト者などと申すのが少ないかと思ひま。事業としては働く人の奥妙な點なく活動々々と申す爲か、間口の廣い奥行の割合に淺いものがありはせぬかしらと疑がはれます。此の社會をキリスト化するは目下の急務でありますが、やはり根本のキリストを忘れては本當に堅き巖上の家の樣ではありません、何處かにゆるみがありませう。

日本には澤山々々重んずべきよい處がありますからそれをなほ一層聖化し、思想に於ても事業に於てもあちらの惡い點まで模倣せず、個性を發揮して進歩し、しかも協力して進みたいと存じます。

新會館を觀る

松宮生

電車で九段の方から行けば神保町の停留場で降りて、電車通りを少し戻つて、何とかいふ素人の營業と銘打つた、文具店の角を右に折れて、順天中學のある通りを半町足らず行くと、東洋家政學校といふが左側にある。其の赤煉瓦塀と並んで、矢張煉瓦塀に表を圍んだ先隣の三階造の新築は、即ち今回竣工し

た東京基督教女子青年會の新會館である。表門から車夫の控所を左に見て、車夫部屋と本館との間の窮窟さうな三間四方足らずの庭園前を、ずつと唐破風造格天井の玄關に入ると、正面が講堂の入口で、其の入口の左側の掲示板は其の日の催や近き將來の會合など諸般の事共を報じて居るのが先づ目につく。そして玄關左側の下駄置場の取附の半ドアを開いて履物を納めて、一轉歩して向ふの半ドアを排して出ると、直ぐ講堂の入口である。

講堂は八間に四間半の大廣間で、竪に短く横に長い。其の横に長い正面に講壇がある。此の講壇は取離すことも出來る仕組なので、或る必要の場合には之を取離して一面に廣い部屋をも作るとが出來る。

この講堂の役目は頗る雜多である。此の講堂を出入する人も亦頗る雜多であらう。或時は說教場となり、或時は講義室となり、或時は研究場となる。老人も子供も青年も男子も女子も、集るべきに集つて散ずべきに散ずる。信仰問題も聞ければ、婦人問題の演說もあらう。更らに此の講堂は女子體操場にも使用される。そして新來の體操教師たるマクロイ女史の擔任で、現今の本邦婦人に最も缺けて居る體育上の補充を試みんとして居る。即ち此の一室の使用は朝に體を鍛へ夕に想を練り信を養ふの諸方面に善用せられる譯である。

これに附屬して一方には體操器具の置場もあり、教師の控室もあり、他の一方には休憩室もある。此の休憩室は演說講演などには講師の控室となるべく、何かの餘興に妙齡諸孃の活人畫でもといふ場合には其顏を粉粧したり其の衣を着更へたりする仕度部屋ともなるべき一室である。

講堂を出て二階に昇るものは、玄關を右に見て左側の大階段を昇るのであるが。講堂を出ると共に玄關出口の左側にまた掲示板を見る。これは玄關より入るものは直に講堂入口左側の掲示に留目すべく、講堂を出づるもの又は二階に昇るものは其の反對の方面に玄關出口の左側の掲示を見るやうに設計したもので、苟もこの會館に來りたるものは一人も報告を見ずして歸らしめないといふ所はまた努めたりと

いはざるを得ない。此處に圖書棚もある。

二階に昇降する階段を昇つて右は會の事務員の控所で會の諸用はすべて此處に於て辨ずることが出來る。更にそれより奥に列べる六疊の間二室は何れも幹事室である。此の事務員控所の後に電話室があり事務用の戸棚もある。此の邊一體はこれ此の會館の全部を支配する中心で、基督敎女子青年會が内外に發展活動する策戰計畫の大本營のある所である。

事務員控所より左に小迂回すると三階に昇る階段があつて、其の階段の前面に廊下を隔てゝ四間半に三間の小集會室、一間半に二間半の讀書室、同じ廣さの應接室亦談話室がある。これ等の各室は或時は襖を外して一室たらしむる事も出來れば、或時は仕切りを入れて幾室かに分つことも得る。そして此の各室が時々獨り靜に勉强の爲めに圖書を繙く自修室ともなるべく、時々三四の交友と共に嬉笑頤を解くの娯樂室ともなるべく、眞に青年婦人のための愉快なる交際場たり倶樂部となつて、常に趣味を導き精神を淸ふする一樂境たるを失はざらんことを望ましく思ふ。

それより三階に昇る階段口に沿ふて更らに廊下を左方に迂回すると寄宿舍の食堂に出る。それに隣つて寄宿舍炊事室と下女部屋が連つて居る。

三階は其の一半を寄宿舍に提供し、他の一半は諸種の修養研究のために使用するやうになつて居る。即ち三階に昇る階段は中途にして分岐して右は寄宿舍に達し左は家政料理擔當の幹事室の前に出る。此處はこの幹事室を始め委員會室、其他聖書研究、英語敎授、家政料理實習、音樂敎授、生花裁縫等の各組の敎授室が相隣り相面して居る、この各室の相面して居る中間の廊下の突當に床の間つきの和風八疊の一室がある。表通りの最高位地に在つて、高く且靜で祈禱會などの爲に最好適室と思はしめた。

各研究又は敎授室はそれ〴〵適當の廣さと設備を有して居る、中にも家政料理の二室は相隣して遺憾なく設備されてある。婦人として最も大切な修練を要するものだけに、萬事の設備が行屆いて居る譯。

寄宿舍は三階にかぎの手形に八室あつて、それに舍監室と應接室各一室宛を加へて十室になつて居る二階より昇る階段の分岐する所から右に昇ると恰度此の寄宿の應接室の前に出る。しかし寄宿舍用の通路は別に寄宿專用とすべきものがある。即ち玄關を入ると會館に來たものとは既に履物の置場も別に玄關右側に設けられて居る。そして寄宿に入るものは其の二階に昇る大階段よりせないで、猶其の奥の小階段を昇つて二階に、それよりまた小階段を進むで三階の料理教授室の側に出で、其の室前を通つて寄宿舍室に達する。故に寄宿は勿論會館の一部に設けられたものであつても玄關より以後は全く別個のものである思がする。

これは時々會館に出入する女子學生とは會館内に於ての境遇が異るので、それ等と混同雜然の風に陷らないやうに注意するのが寄宿舍生の爲にする所以の設計と思はれる。しかし全く別個のものとして嚴重な區劃を立てたのではなくて、舍監室は三階の重要な位置にあり、廊下の如きも何れにも四通して、何等不便を感ぜない事は勿論である。

寄宿の室は一室六疊すべて同型で各室押入を備へた日本風である。定員は一室二名として惣計十六名の舍生を入れることが出來るだけである。とかく大きな建物に三十でも五十でも乃至百の二百のと舍生の掃溜のやうな寄宿舍を作つて、家庭的の味も分ず規律も立たず、親密もない沒趣味なのが多い今の時代に、これはまたしんみりとした暖い宿舍を維持され得ること〻思ふ。殊に玆に入舍するのは各職業に從事する獨立婦人が多いといへば猶更ら自治的に規律的に家庭的に幸福な宿舍を作ることが出來やうと思ふ。

また洗濯教授場は寄宿舍へ上る二階々段の側の土間に在つてルードヒータを据付け、三十分で湯を沸し洗濯に從事することが出來るやうになつて居る。其の後は暖爐室で館内の溫度は此處から分送せられる。其他湯殿から便所物置などに至るまで新式で適當な設備に遺憾がない。

建築の大さは百十坪の總三階で、起工は本年二月。半歲餘に出來上つたのである。終に余は此の新會館が神國建設のために善用され活用されて將來本邦靈界の開發に貢献することが少なくないことを信じて先づ大にお祝を申上げる。

米國女子靑年會の活動

（桑港博覧會に於ける）

米國女子靑年會が彼の桑港大博覧會々場に於いて　般観覧者并に會場内に働らく婦人のため何等かの益する處あらしめんと期して博覧會開始と共に女子靑年會館の一棟を建築し種々の働に着手し目覺ましき活働をなして居ることは讀者諸君の既に承知せらるゝ如くでありますが、最近の米國女子靑年會本部發行雜誌にこの働の模様が掲げてありましたから最も興味ある二三を選んで譯載する事に致しました。米國の地にあつても尙吾々の最も近き姉妹なる女子靑年會々員達が斯る働きをなして社會に貢獻する處の多大なるを思ひ私共女子靑年會の一員たるもの誠に欣喜の情を制し得ないものがあります。（正子）

ゾーンにある女子靑年會のクラブ館は博覧會場内種々の陳列部や賣店に雇れて居る婦人達のために設立されたもので僅か一週間の内に食事毎にあつまつた者の平均數實に四十二人を算し此の氣がねのない溫かき建物に休息したるものとして記名せし者が二百人以上に達しました。該館にはある婦人達の子供の相手をしたり又もりをするために所屬の守りが居ります。又この内に浴場を用意して若い婦人達の用に供して居ります。此處に集まれる人々の國籍から云へば、オーストラリヤ、オースリヤ、獨逸、布哇愛蘭、パナマ、加奈陀、亞米利加の諸國でこれらを代表して居るとは愉快ではありませんか。基督敎靑年會に對するこれら外人の態度は外國の地にある宣敎師達が絶對的に凡ての爭議を鎭定せし處に見出すものと全く類似して居つて誠に好意的のものであります。中にも此處に居る印度人は殊に女子靑年會に信用をおいて居る樣に思はれます。

ゾーンに於ける婦人雇人の子供等は一日中このクラブ館に集まつて病院に居る貧しき子供のために瑣碎帖をこしらへて居ります。種々の有用な働きをして居るためか、もはや今より、この博覧會閉會後にはこのクラブ館はどうなるかと云ふ事を心配してたづねる人々が多數ある位であります。而して該館の家庭的空氣は始終路傍にさまよい、或は冷遇にのみなれて居た若き婦人達にとつては、特に溫き自分

の家庭と云ふ感じが一層深くあたへられて居ります「御辨當は何處で召し上りますか？」「女子青年會に參ります、私はあそこで今の働き口を得たのですよ」などと云ふ少女間の會話を度々耳に致します。

青年會が婦人達及び何の仕事もなくて途方に暮れて居る少女達のために致しました事は其の家庭より出奔して來た者をその家にかへし、病める者に治療をあたへこれを看護し、或は仕事のないものに仕事を求めて與へる事などがあります、この他このクラブ館に附屬した一つの小供部屋があつて、博覽會縱覽中疲れた母親だちは其子供を預けて置く事が出來る設備が出來て居ります、これは一般の人々の間に非常に好評を博して居ります。又博覽會場内の諸賣店にやとはれて居る婦人達のため、云はゞ賣子養成所とも云ふべき夜學校を開いて居ります。而して日々其發展著しく諸館内の雇主は何れも彼等の働きに助力を與ふる處ある青年會の事業に多大の興味と賞讃をあたへて居ります。尚この他同校では外國より來て居る婦人たちのため毎日英語の組をひらいて居ります。日曜日には夕の禮拜を行ひ、これに列するもの實に毎週二千百人の多きを算し、合衆國各地方の名士を招待して其の說教を乞ひ、又よく熟練した唱歌隊の音樂があります。

此他諸種の印刷物を人々が料理店に參るたびに彼等にあたへて居ります、そして幾千枚と云ふ印刷物を配布するのでありますが、後に其の印刷物をろく〳〵見もせずに放棄してあるのを見る事が殆どないのであります、これを以つても人々がいかに興味を有し其歸宅する時にもこれをもつてかへるかを見るに足る喜ぶべき實證であります。又青年會館内にある休憩室は一週間に平均五百人以上の人を入れてをります、而してこの内に居る係の熟練した看護婦はその懇求に應じて一時の應急手當を施したもの實に六十幾人の多きに達してをります。尚該休憩室の係員達に來る依賴の內には赤坊のために玉子をゆでる樣にとか、靴をかしてもらい度い或はあめにぬれた

衣服をかわかす間代りの衣服が欲しいなどと云ふ奇抜なものもあります。かくの如くにして同館内に集まつた人々の最多數は六月五日午前十一時より午後八時までの間における六千百十九名であります普通の日においても平均三千八百七十人を算してをります。又毎週同館内集會室に於て女子青年會事業の活動寫眞を催しますが其観覧者殆ど六百人に達してをります。

該博覧會の某役員はある日『私共この博覧會管理者は皆女子青年會をこゝに得た事を非常に幸福と感じてをります、而して吾々の見地から見た其の働きの價値ははかりえられない程で、皆様がしてをられし凡ての事に對する私共の感佩は言葉に表はす事が出來ません』と、申した事があります。

此博覧會場に於ける諸種の雇人のために、會場で集會をひらく事は、女子青年會の博覧會に於ける一仕事となりました、此處は凡て午後六時には閉館いたしますので會場のいづれの建物をこの會のためにえらんでもよいのです、そして六時半には全く其の有様をことにし著しき變化がおこなはれます、即ち凡ての陳列物はその姿をかへて代つて食卓があらはれ奇麗な裝飾は見る〳〵内に出來上り會場内に雇はれて居る婦人少女合はせて二三百人のものが一所に食卓につき共に懇談の内に集會がひらかれます。而して遠方から來て居る人々でかれ等の土地から來て居る者があるかとたづねる者もあれば、又東部の各地方より來て居る少女達は恰かも舊知であつたかの如くに共に親しげに語りあつてをります。實際に於て東部より來て働いて居る少女が其大多數をしめて居ります。尚他の娯樂會も計畫されて居りまして幹事達は御互ひに懇意な若き婦人を集めるために熱心に働いて居ります。而してこれにたづさはる各委員は各州あるひは諸外國館に居る婦人達の團體のために各々特別の責任をもつてをります。

七月二十一日にはじめて開いた小供部屋と運動場は非常な大成功を奏してをります、これらが眞に成

功して居ると云ふ事は少なくとも一度に二十五人の幼兒が音樂を奏してをるのを聞いた人々の受くる印象であります。五人の係員が居てこの子供等を監督してをりますが其子供等は皆各々附札を下げて居ります、そして兩親は煩はしい小供をつれて歩く代りに其子供の持つて居る札と同じ札をたづさへてあるいて居ります。そして歸宅する時は其の札によつて小供を受取つて歸へるのでありますから誠に便利で御座います。

◉米國羅府女子青年會

大谷ろく子

羅府の青年會は河井先生の御盡力によりミスダビングが尚一ケ年助けらるゝ様になりました。これは大なる賜物と存します、又河井先生が御いで下されてより非常に會員が目をさまして活動する様になりました、去る八月十四日には原信子孃が渡米せられたを幸ひ同孃を招待して音樂會を開きました、千三百五十人の入場者がありまして仲々盛んで御座いました、之を以つても會員が如何に活動し始めたかを御察しして頂きませう、音樂會が終ると直ぐに私はアッセロスに開かるゝ女子青年會の修養會に參りました、ミスタビングは會の都合により少々おくれますので私一人で參りました、白人の修養會には始めてゞあつて先方の樣子もわかりませんので少なからず心配して參りました處、案ずるより生むがやすしとやらで、河井先生が硝子越しに見えましたので嬉しくとびつきたく思ひました、然し國の體面にもと存じ心を靜めて入りました處先生は尚も熱心に誰にかは知りませんが日本語で手紙を認めて居られました、後から「先生今晩は」と挨拶致しました處豫期せざりし如く驚かれました。私はうれしさのあまり何の言葉も出ませんで只々先生の後についてまゐりました、記名を致して大きな松の木々の下を通つてテントの小屋につきました、之れが先生の居らるゝ

處で私も其の隣の室に居る事になりました、音樂會のため疲れてまゐりました私も先生の御親切と御面會の出來た嬉しさにより疲れはどこかへ飛んで行つた様に思はれました。

先生の處へ參つた日本からの御手紙など聞かせられてそゞろに日本を想像して居ります、昨年の修養會の事などを話して懷かしがつて居ります。今年も人數は少なくとも大層有益に送られたそうで嬉しく存じます、昨年キレブの內で雨にふられたゝめ大騷ぎを致しましたが此地に更に雨がないのでそんな恐はありません、然し大層霧が深くて十日間居る內に昨日と今日と二日しか太陽の御顏を見ませんために毎日外套をきて、火をもながら話を聞いて居る様なわけ、夢とより外に思はれますまいが之れが事實なのですよ、そんなに寒くても流石は活動の人種！ 一人としてすくまつて居る人はありません、老人も大分居りますが女子青年會ですから皆青年の如く火をたきながらも愉快に話し遊び實に無邪氣な者です。

此間は先生と共に海邊に行つて砂の上にねころんで參りました、誠に氣持ちが好うございました、又先生の御活動は常々御承知の事でせうが、此地に參られて毎日日本について白人のために講演して居られます。皆が先生の御講演を喜んで「得難き婦人だ」と賞讃して居りますので私までが肩身が廣く思はれます。搗て加へて先生の此處に居らるゝ事を聞傳へて此近くのマントレーといふ處からは來て何か話してくれと依賴に參られました、先生は人のためならば少しも疲れをいとはず御承諾なさいました。そして私もこれには同道いたしました。數へ來れば先生の御活動は限りありませんが、私は御地の青年會が此地に來てかくも御活動して居らるゝ事と嬉しく存じます。それと同時に又此地の青年女子達の誠に元氣に斯る社會事業のために熱心に働いて居らるゝ事をきいて私共も日本人ももつと人のために盡さねばならぬと思ひつゝ敎訓を與へられました、私共は明朝は別れねばならぬ様になりまして何となくいやな感じが致します、そして先生を永くこの地に私と共に御止め申し度く存じました。

以賽亞書

牧師　横田貞治

第一回　緒論

（一）以賽亞書の成立　以賽亞書は六十六章の大部の豫言である、然し明かにこれを二分する事を得。即ち四十章以下とそれ以前の二つである。此二つの部分は、其性質、内容、文體委く相異り、少しく心して見る處の者は、等しく然も感ずる處である。現今に於ては四十章以下に於ても、二つの區別を見出すに至れり。即ち五十六章以下と其以前とは異なりたる人と距たりたる時代の豫言とされてをる。そこで次の如くになる。

自第一章至第三十九章＝第一以賽亞書
自第四十章至第五十五章＝第二以賽亞書
自第五十六章至第六十六章＝第三以賽亞書

所謂第一以賽亞書に於て、我々は始めて、紀元前八世紀の豫言者以賽亞の豫言を聞く。第二以賽亞書は囚虜時代、即ち紀元前六世紀の無名詩人の筆による。（紀元前五百九十七年を第一囚虜、同五百八十六年を第二囚虜、そして同五百三十七年には囚虜の民がバビロンより歸つた。故に紀元前五百九十七年より五百三十七年迄を囚虜時代と云ふ。）第三以賽亞書は紀元前五世紀中頃の産物らしい。

如何にして一つの書が斯くの如く幾時代の異つた人々によつて書かれたものかを知る事は精密に研究すれば明かである。

第一、文體が異る、各々獨特の言葉を有して居る是は記者の異れる事を感ぜしむる。第一以賽亞と第二以賽亞を比較すれば、日本語に於ても直ちに其調子の異れるを感ずる、即ち第一以賽亞は簡潔堅實堂々たる處がある、これに反して第二以賽亞書は或る言葉の句を繰り返し、其言葉を敷延し展開せる處多

く、文章流暢滑かである。又第一以賽亞は其修辭莊重で、感情を抑壓して居るが、第二以賽亞は溫情春の如く、感慨流れて屢々叙情詩となる。これを一言にして云へば、力は之を第一以賽亞に見出し、情は之を第二以賽亞に見出す、即ち一つは男性的で、他は女性的である。斯る相違は同一記者の作でない事を示す。

第二、思想及其の目的を異にしてをる。文體が異れる如く思想、目的も著しく相違がある、例へば以賽書九章六節以下のメシヤ觀と五十三章のメシヤ觀とを比較すれば全然異れる點が明かである、無論この間に矛盾はない、同じ神の靈に充たされて書いて居るのであるから。然かし各自獨特の使命を有し、異れる思想を有してをるのを見るのである。第二以賽亞書と第三以賽亞書とは一寸同じ樣な調子があるが又相違の所もある第三は第二に比して末來記的で又殿のことを重要視して居る。到底一人の手とは受取り難い。

第三歷史的背景を異にしてをる、第一以賽亞書の文章を見れば、『ウジヤの死にたる時豫言者イザヤ神の幻を見る、』とあつて、これは紀元前七百四十年である。然るに第二以賽亞書は、ユダの王でなくペルシヤ王クロスの時である、バビロン漸く衰退し、クロス王天下の權を握らんとせし時である。紀元前五百四十九年にメデアを攻め、同五百三十年にバビロンを征服した。依て明らかにこの書は五百四十九年より五百三十八年迄の間に書かれたものであつて、優に二世紀の差がある。第三以賽亞書は六十章七節十三節、六十一章四節にある如くエルサレムの殿は築かれたが垣はまだ建てられざるの狀態の時であつた、これはネヘミヤの來つた以前である紀元前四百四十四年にネヘミヤ來りて五十二日間に、エルサレムの石垣をたてた。依て第二以賽亞と第三以賽亞は約一世紀を距てゝ居る。

以上三つは内容に於て見出だせし處の相違であるが、次に外部の證據もある。歷代志略下三十六章二

十二節以下に於て以賽亞書四十四章二十八節に見出す豫言をエレミヤの豫言と云つてをる。この歴代志略は紀元前三百年のものである。此時はイザヤの豫言と認められず獨立せるものとして居つた事を示して居る。

(二) 第一以賽亞書概觀。第一章より三十九章迄は以賽亞其人の豫言ばかりではなく、後の人がこれを編輯する時に、他の豫言も附け加へるに至りしは止を得ない。

(一)自一章至十二章、主にユダとエルサレムに關する豫言。(二)自十三章至二十三章、主に異邦民に關する豫言。(三)自二十四章至二十七章、世界の審判に關する默示錄。(四)自二十八章至三十三章、アッシリヤとの關係を論ぜる豫言の一團。(五)自三十四章至三十五章、エドムの將來とイスラエルの將來との對照。(六)自三十六章至三十九章、歴史的附錄。

此内第三部はイザヤのものでなく、後の人の手によりてなされたものである。其の時代は一定せないが紀元前二世紀頃のものなりとの説がある。文體が異れるのみならず、其觀念が紀元前八世紀のイザヤのものとして取りがたきものがある。二十六章の十九節に復活の思想がある、然し舊約に於ての復活と云ふ思想は後のもので、イザヤ時代にはない。第五部も又八世紀頃のものでない、エドムに對し惡感情をいだけるは第三イザヤか或はマラキ書と同時代なるを思はしむる。第六部は列王紀十八章十三節以下を取れるものなる事明かである。この内でも三十七章二十二節より三十二節は八世紀のイザヤのらしいが他は然らず。斯くの如く第一以賽亞書に於てさへイザヤのものは、第一部第二部及び第四部のみである。而して又此中にも後の編輯者の筆の跡を見るのであるが、大部分イザヤのものと見てよいこれらは大體に於て年代を追ふて書かれたものである、第一部はイザヤの生涯の初期に屬するもので、第四部はイザヤの生涯の最後のものである。然し嚴密にいへば時代に重きを置かず、論題に重きを置いて居る。

又年代より云へば、(第一部)ウジヤ王の死より、アハズ王に至る間の紀元前七百三十五年の豫言。三○より四○、五○、九○八—十○四—、(第二部)スリヤエフライムの聯合軍がアハズ王を攻めし時、即ち紀元前七百三十五年より七百三十三年までの豫言。七○一—九○七、一○、十七○一—十一(第三部)其の後よりザーゴシアッシリヤ王の死に至るまで即ち紀元前七百三十三年より七百○五年までの豫言。二十八○一—六、十四○二十八より三十二、二十○、(第四部)アッシリヤ王、セネカクップが即位より西部征服まで即ち紀元前七百○四年より七百○一年までの豫言。十○五—三十四、十一○一—十、十四○二十四—二十七、十七○十二—十四、十八○、二十二○、二十八○七—二十二、二十九○、三十○、三十一○三十二○九—二十、三十七○二十三—三十五、以上大體に於てイザヤの物なれ共、三十二章一節より八節、十九章及二十三章は或はイザヤのものであるかも知れぬ。以上の年代別は學者によりて說を異にして居つて不確な所もある。

(三) イザヤの生涯、紀元前八世紀の豫言者イザヤの宗教的觀念を知らんとするには、先づ彼の時代の歷史と生涯を知らなければならぬ。イザヤとはエホバの救と云ふ意味である、如何なる階級の人なるかは明らかでない、唯アモツの子とあるのみ、傳說によればアモツはアマジヤ王の弟であると云はれて居る、依つてイザヤはアマジヤ王の甥にあたる事となる。又イザヤのイと云ふ字は昔は王家の者にのみ附ける文字である故、イザヤは王家の者なりと主張する者がある。確かでない。然し種々の事より綜合して、彼れは無名の詩人ではない、上層に屬するものである。例へば彼が宮中の事に詳しかりしは、彼がこれに屢々出入せし事を示して居る。又彼れは自由に王の面前に出づるの權を有し、政治に參與をして居た事は明かである彼れは權門の生れにて政治家であつた。然も彼の思想高尚にして文章精練せる所は又彼れが良家に生れ高等の敎育を受け、上層の社會

に交はりし事を聯想せしめるのである。彼れは紀元前七百六十年頃生れた豫言者で、エルサレムにて生れたか否かは明かでないが、兎も角彼れは純然たるエルサレム子である。彼れの豫言は主にエルサレムに關し其理想は、シオンならずば實現されずと信じて居たによつても明かである。

當時イスラエルは南北に分立してをつた。

北イスラエル（即エフライム）はサマリヤを首府とし南はユダと稱しエルサレムが首府であつた、其當時の北部に勢力ありて、南部は殆ど征服されし有樣であつた、北部はヤラベヤム二世の頃を全盛とし南部はウジヤ王の治世五十二年間が最も繁榮の時代であつた。

彼れが豫言者として立ちしは紀元前七百四十年より七百三十六年を上下してをる。ウジヤ王の死後と六章にあるが、この時始めて神の言葉を與へられた其處で彼は北イスラエルにて紀元前七百六十年頃豫言せるアモス、同じく七百四十年頃北部にて豫言せしホゼヤに學ぶ處多かりしを示す、このイザヤは早く一家をなし、二人の子供があつた。紀元前七百三十五年頃長男がイザヤにつれられてアバズ王の前に歩いて行つたとの記事がある程成長して居つたと云ふ事より察するも、彼れが既に豫言者として立つた前に一家をなして居つた事が明かである。長男をシヤルヤシツブと云ひ、次男をマヘルシヤラルハシバズと名付けた、共に預兆的名稱である。この長男の名は殘れる者歸へらんと云ふ意味で、多數の人は失はれても、或る者は歸へらんと云ふ事を示し、これイザヤの主なる豫言の一つである。アハズ王がアッシリヤ王に攻められて周章狼狽せし時（七章にあり）其長男をつれて王の前に出でた、これは神を信ぜよ必ず殘れる者歸へらんと云ふ事を示して居る。これに就いてイザヤの心持ちを二樣に解釋する事が出來る、一つは北部は亡ぼされても、南部は亡ぼされない、神へ歸へる事が出來る。他は多くの者が亡ぼされても、或者は歸へると全體に渡りて豫言せる事に

なる。
然るにアハズ王これを信ぜず、よつてイザヤは其次男の名を獲物に急ぎ掠奪に早しと云ふ樣な意味を以て、マヘル、シャラル、ハシ、バズ、と稱へた（八章）ダマスコの民とサマリヤの財寶は遠からずしてアッシリヤに取られると云ふ豫言である果せる哉アッシリヤ王テグラテピレセル來りて、ギリアテ、ナフタリ、ガリラヤの諸郡を取つた。紀元前七百二十七年にサマリヤはアッシリヤ王ザーゴンに滅ぼされ南へも攻めて來りしが、ユダは貢を納めてこれに服し其の滅亡をまぬかれた。紀元前七百十五年にアハズ王の子ヒゼキヤが獨立して王となり改革をなした。（列王記略下十八〇三―六）彼は善き王であつた七百〇五年にアッスリアのサーゴン王死して其子セネカリップ帝位につきし時は各所に亂を起すものあり西方諸國も反亂を企てた。此時ヒゼキヤは寧ろ其主唱者であつたかの樣である、其處でセネカリップ七百〇一年自ら大軍を率ひて西方に攻め來り、先づベニケベクレテの幾多の都を落し、更に進んで埃及の大軍と會戰せんとせしが、エルサレムを其まゝにして之を側面或は後方に置いて戰ふの不利を見て、ラキンより一隊を派してエルサレムを恐嚇し之を降服開城せしめんとした、然しヒゼキヤは豫定者イザヤを通じて語る神の言を信じて、敵の嚇を恐れず其の降服の要求を斷乎として却けた。元よりラキンより派せし一軍は虚勢なれば如何ともするを得ず、然かも事急なり、遂にエルサレムを其儘にして南進せしめたるが此セネカリップ急に故國に兵を退かねばならぬ事となつた。之れ大分軍中に疫病流行せし事と本國に內亂ありとの報を得たからであらう、アッシリヤ軍は此處に退却して最早再び攻めて來なかつた、此處にエルサレムの民は神に信賴するの深き意味を悟りし事と思はる。
斯くの如き次第で兎も角ヒゼキヤ王の治世には、イザヤは信ぜられ、又用ひられた樣である。ヒゼキヤ王が大病にかゝりし時もイザヤの豫言が如何に重

きをなせしかを見る。彼は何時代頃まで生延びしか明かでない、兎も角其の豫言は此七百〇一年セネカリップ西征の時が打切である。傳説によれば彼れはマナセ時代迄も生存して其時大に迫害を受けて殺されたと云ふが、歴史上不明である。

以上が先づ大體に於てイザヤの生涯と其當時の歴史的背景であるが、此等は以賽亞書を讀むに當つて是非知らねばならぬ事柄である。（文責在記者）

◉温故片々

辻村靖子

○呉越同舟　呉と越とは今の江蘇、浙江省の邊にあたり、春秋戰國七雄分裂時代に、この二國境を接したるを以て、累年互に攻伐し、或は勝ち、或は負け、宿怨結んで解けざりし故、仲のあしき事を呉越の如しと云ひたり。事情は今の獨佛の關係にも似たるべし。臥薪と云ひ、嘗膽と云ふも夫より出でたる故事にて、呉王夫差、朝夕薪の中に寢ね、出入に人をして呼ばしめていはく、汝越王か汝の父を殺せるを忘れたりしか」と越王は赤膽を座臥に懸けすなはち仰いで膽を嘗めて曰く「なんぢ若會稽の恥を忘れたりしか」と、さて越ははじめ會稽に敗れ呉は終りに姑蘇に亡びたり。同舟とはそれ程に怨み積れる國人同志も、時によれば、同じ舟に乗り歡賞することもあり、人情の美さは巳めんとしてやむべからずとの意なり。

花の籠

破れし筵

木岡莞爾

教會の講壇は禮拜の精神が集中して、廣々とした神の聖座と大氣が通ふ窓のやうなものである。『名月や疊の上に松の影』と故人の詠じたる如く、小さき既往の罪も心の上に黑い影を落す事があるのは、神の光の强い爲であつて、玆に悔改の心も生ずるに至る。

或る牧師の夫人が其愛子兩人を伴ふて、毎朝此講壇の側に跪いて祈る事を常として居つたが、遂に其筵が跪ける場所だけ破れたといふ事であつた。慈母の日毎の祈禱を聽ける兩兒は、松葉のやうな莿、心を刺して悔改を促し。感謝はあふれて愛らしき瞳に露を帶び。謙遜、忍耐、柔和、從順などのよき果を結ぶに至つたのである。其長女今は傳道に一身を献げんとして居る。實に破れたる筵もながら神の聖座を飾る花莚に等しい。

メンデルゾーンと音樂

子供諸君は、音樂がお好きでせうね。神様御自身も音樂はきつとお悦びになるに違ひ御座いません、何故と云へば、神様は此の世界に、こんなに澤山、音樂を下さいましたもの、木の音樂、小川や河の音樂、太洋の歌や、小鳥の囀り、其の上に一番いゝ事は神様が音樂を作る事を私達に敎へて下さつた事で御座います。

聖書を見ますと、天にある神様のお家は音樂が滿ちて居ります、天のお使も歌へば、神様と一緒に住んで居る榮ある聖徒達もみんな音樂をよろこんで居ります。天上の音樂の中でも、私は天に居る子供達の歌が一番聽きたう御座います。此の世で、子供の歌ぐらい可愛いものは御座いません、子供が神様の天のお宮で歌ふ時は、天のお使達も、きつと立止まつて聽くことでございませう。

私が、今きつと天に居るだらうと思つて居ります偉い大音樂家の中に、フエリックス●メンデルゾンが居ります。此の人は此世に住んで居りました時、立派な音樂を作りましたが、多分今も作らへて居りませう、私共は聖い都で神様と御一緒に住む様に、神様が私達をよんで下さいます時に、その音樂を歌ふことで御座いませう。

メンデルゾーンは或日獨逸の大きな敎會へ參りました所が、其處には大きなオーガンが御座いました。其處にはオーガンの彈手が居りましたが、その人はメンデルゾーンを存じませんでした。それでこの大音樂家が、オーガンを彈かせて頂けますまいかと願ひました時、このオーガン彈手は斷りました。けれどメンデルゾーンが重ねての賴みにとう〳〵容しました。そこで、彼は鍵盤に對して坐りました所が、大きなオーガンは、こゝの老いたオーガン彈手が、今迄聞いたことのないやうな立派な音樂をそゝぎ出しました。彼はこのオーガンをかくも歌はせ鳴らせた、見知らないお客様は、一體誰であらうと奇しみ

ました。名前を尋ねて、それが音樂の大家メンデルゾーンだと知りました時、彼は泣きました。「何だつて、まあ、私は、メンデルゾーン先生が、私のオーガンに觸るのを危なく禁じやうとしたのだ！」彼はメンデンゾーンが獨逸第一の音樂家と云ふ事を知つて居たので御座います。

子供諸君、他のオーガンがとてもかなはない音樂を出すオーガンが御座います。それは神樣がお造りになつたオーガンで、神樣のもので御座います。時々神樣は其處へいらつしやいまして、その音をたてやうとなさいます。けれどもそのオーガンの番人は、それを造らへて下さつた神樣を知らないで居ります。

子供諸君、この一番偉いオーガンの一つは、あなた方自分の心で御座います。神樣は御自身の爲に、これをお造りになりました。これは唯神樣ばかりが音を出して下さる音樂で一ぱいになつて居ります。もしあなた方が、神樣を鍵盤に對して、お坐らせ申上げるならば、この世界が聽いて喜ぶやうな音樂を神樣はあなた方の心に造しらへて下さいませう。

音樂の主の神樣を、お造りになつたオーガンから閉め出すのは、情ないことでは御座いませんか。神樣に「否」と云つてはなりません。あなたの心をすつかり、手も足も、眼も舌も、ありつ丈の力をみんな神樣におさゝげなさい。さうすれば、神樣が、神樣のオーガンからお出しになる音樂を聽いて、あなた方はお喜びになることでせうし、この世界も聽いて喜びませう。そして小供諸君、は人間の心の音樂が一番お好きな神樣を、およろこばせ申すことで御座いませう。（松榮譯）

和歌

辻村すやて

櫻井女塾の祝賀會に招かれて、其席に列りたるにふるき塾生だちの、遠きより近きよりまゐりつどひたまへるを見て

時をえて雲井に搏つわが鷹もすだちし松の根をし忘れぬ

人の子を思ふなさけの露よりや紐ときぬらむ八千草の花

遠き洋より齎らし來りたるペンキンの上野の動物園に收容せられたりときゝて、直に子らと行きてみけるに、うす濁りせる水、やけつきぬべき石の間に、彼がみじろきもせで、うづくまりたるあはれ。いつまでか生きてあらむやは慣れみにたへず

南極のこほりの海をゆめみつゝいのちしぬらむあはれこの鳥

後二日ばかりして斃れにけりと云ふ游子ふるさとをこふと云ふことを

をのこわれかへりみせずていでしかとあやしくその夜ねられざりける

螢

夏山のこのくれやみを夕づゝのとびぬとみしは螢なりけり

于蘭盆會

ともし火の數そひながら寂しきは魂まつる夜のこゝろなりけり

夏夕

すみぞめの夕になればすゞかぜの流るゝ庭に月み草さく

夕風はしばになな吹きぞ月見草おのづからさく花のさまみむ

信濃の上河内の繪はがきをえて曾遊をしのぶ

かみな月霜に傲れる水仙の莖いろみせて梓川行く

○

三浦斗爲子

きりすとの家のもとに住人のこゝろは夏もすゞしかりけり

かくばかりみたまの風の涼しさを世の人みなにしらせてしか那

見・聞・想

第十回修養會感想(つゞき)

(三)

大阪　安東庸子

修養會に御出席遊ばした先生方をはじめ、會員の皆樣その後は御變りも御座いませんか、私共も御蔭樣にて毎日感謝しつゝ暮して居りますから、他事乍ら御安心下さいませ。修養會の一週間は眞實に終生忘れる事の出來ないほど樂しい有益なものでした。私は歸へりましてからも朝に夕に思ひ出しては喜びに滿され又勵まされて居ります。私は女子青年會のある事を伺ひましたのはつひ二三年前で御座いました、然し其當時は其程まで御會の事に付いて深く考へた事も御座いませんでしたが去年の十一月より御會の雜誌を拜見するやうになり、又今年は何の幸か夏期修養會にまで出席する事が出來まして、段々私の心は御會よりはなれられないやうになりました。始めは他人の樣に思はれて居た御會が、今ては全く親しい御姉樣が居らつしやるやう思はれて御懷かしくて仕樣がありません。大津勝男館の大きな玄關て始めて皆樣に御目に懸りました時の喜びは、今も尙私の心に深く殘つて居ります。然し何分初めて參りますので、會場につきますまでは、少しは不安もありましたけれども、皆樣のニコ〳〵遊ばした御顏を拜見致しましてからは、そんないやな思ひけ影さへないやうになつて、久しぶりの親しい御友達に御目に懸つたやうに嬉しく存じました。これも全く先生方皆々樣方の御親切による事と深く〳〵感謝致して居ります。修養會の一週間は初めて參りました私にとつて凡て始めより終まで喜びと感謝の外はないので御座います。朝に夕に敬愛する先生方の有益なる御語を承はり、又種々なる方面に於て皆々樣の御熱心な御活動振りを拜見致し、私の小さい胸には支へきれないほどの澤山の御めぐみを頂きました。金森先生は『聖靈の火の玉となつて人々に其火をうつせよ。』と御敎へ下さいましたが、私も頂きました御惠の火を及ぶ限り當地の御友達に御分けして、共に神樣のためにお盡し申度いと存じて居ります。種々感じた事澤山に御座いますけれども、筆のまはらない爲に凡てを申上げる事が出來ないで、ほんとに殘念に存じますが、唯一つ私の心に切實に感じました事は格言として撰ばれた聖句の精神が、修養會の何れの方面にも滿ちふれて居た事で御座います。『エホバを俟ち望む者は新なる力を得ん』偉大なる祈禱の精神は私共の心に更に強く響いた事で御座います。來年の修養會までには、只今より三百五十日ほどの日數を經なければなりません、其間何卒皆々樣御健やかにして、いよ〳〵御榮の爲に御働き遊ばすやうに蔭ながら祈つて居ります。併せてまた本部の御發展を切に祈ります。

(四)

大阪　山中洛子

私はいつも永き夏の休を近きあたりに遊び過すか或は家にあつて種々なる事にあたるのが、習慣の如くになり餘り遠方にも出なかつた私が、二年前臺灣の土人の學校に送られてより、神樣の大なる靈に觸れる事を得、なんだか己れの古びたる衣を取り去られ、新らしき衣をまとひし如き喜びに充たされ――其夏より、是非一度修養會に出席いたし度、この夏こそは淸く送りたきものと望んで居りましたが、ある夏は旅の疲れ、或る夏は家人の病氣などにて出席致し得ず、誠に殘念に存じて居りましたが、本年こそはと修養會の近づくを待詫びて居りました、處が何の幸か日頃敬愛するヘール先生より

も、此夏は是非修養會に出よとて旅費及び小遣まで御惠み下され！した。これ實に神はこの小さきつまらぬ私をも心にとめて適當なる時につかはし給ひし事を喜び勇んで來會致しました。『求めよさらば與へられ、たづねよさらばあい、門を叩けよさらば開かる事を得ん、』この御言葉を深く味ひました。實に想像以上の御惠みを得ました。飢え渴いて居つた私の心に、淸い美しい澄める惠みの湧き出る廣大なる泉にあつた心地が致しました、まだ〳〵この言葉丈では到底その惠み靈の力を言ひ盡しては居りません、拙なくて言葉に云ひ得ぬが殘念です、又一方に於て友情、神を知りし者、神を手本として仰ぐ友情の又惠みに滿てる事を味ひ知りました。數名の友と出席致したので御座いますが、初めて御目もじいたせし友ばかりで親しき友は唯一人丈、一寸心配いたしましたのは室は誰と一所になるだらうかと伺へば、ミスマシユー！、生れて今日初めて御目に懸るので而かも西洋の御方と御一緒、如何にしやうかと恥かしいやら、つらいやうで小さくなつてしまひました、然し案内せらるゝミスレーガンの後より從ひ、愈々ミスマシユーとおつしやる先生に御面會。御目にかゝれば今までの心配も何處かへ逃げてしまつたのか、神樣が御取り下さいましたのか、實に親しく私を歡迎して下さいました、その時は子供らしい私の心の中に母にでも迎へられる心地いたしましたいつも〳〵御親切に可愛がつて戴きました。言葉では申されませんでしたが、兩親を離れ、兄姉を離れし淋しき旅にある私を慰さむる如くに、暖かき心を持つて私の手を親しく取つて靜かな夜をねむらして下さいました、海の音いつも私の心をたゝくやうに思はれました。ア、天の父は斯くの如くより以上の親しみを以て今なほ我れに立ち歸へれよと、暖かき御手を下して私共凡ての手を取り、そして保護しておとない給ひますことを、深く〳〵思ひ起させました。神を信じて居る私共はこの修養會の格言、イザヤ書四十〇三十一、エペソ書六〇十を常に心にとめ、靈のバプテスマを受けて其の力をもつて、この天の父樣の御心を凡ての人々に紹介し、凡ての人が神によつて安心を得らるゝために熱心に働き祈らねばならない事を深く〳〵感じました。今月からは大いに働き祈りませう、末筆にて失禮乍ら修養會に御つくし下されし諸先生方に厚く御禮申上げます。尙未だかゝる集會にて御めぐみにあづかり給はざる姉妹方は是非今より求めたまひて、來る年に於ては是非一度靈の力を受けらるゝやう切に希望致します。求めるならば必ずあたへて下さいます、友なくとも神を友として集まる時は眞の姉妹の如く親しく打ちとけて實にたのしきもので御座います。ます〳〵この會の盛んならん事を祈ります。終りに私の家族の救はれん事を御祈り下さいませ、切に御願ひ致します。

（五）

東京　小山順子

基督敎女子青年會の修養會に連りまして百數十名と云ふ大家族の一人となりましたのは今年の夏が初めてゞ御座いまじた、旣三年前から先輩の方々や友人などから勸められまして出席したいと思つた事は屢々で御座いましたが、其時を得ましたのと、是非出やうといふ熱心とが結び合なりましたのは今度で御座いました。出席しての愉快と終了後の滿足は申迄もありませんが、會期中に得た印象は言語に表はし難いものがありますけれど僅かに今迄心の中に潜んで居たものが動き、それを中心にして考へなり感じなりが働くやうになりましたのは事實で御座います。何が愉快でしたかと申しますと集中

した信仰生活の營まれたこと、全國各地を代表した信徒、會員が一個の大家族となつて親しく交ることが出來たこと、及其大家族が同じ目的の下に力を協せて研究修養をなす事の出來たと云ふ樣な點でありました。勿論僅か一週間の會期で其間に多くの問題を取扱ふのでしたから多分は何事も其緒に就いたばかりではありましたけれども、其が皆導きの糸となつて今年若しくは、私共各自の今後の生涯を貫いて完成すべき筈の大きな果實、聖き献物を作る緒となつた事を思ひますと意味が深う御座います。協同の生活は特別な力を持つて居ります、況して主に知られ、又主を知り且益々主を知らんと努むる團體の生活は大なる價値あるもので此れに屬する各自は何時も〳〵益々これを向上さする事に努むる責任のある事を思はせられました。委員諸先生及係の方々の己れを忘れての御盡力、御親切は會の印象の中に籠つて永く私共の修養上に感化を及ぼすことゝ存じます。

漁村傳道

大田原よし子

今年の夏期は夏期傳道のため私は友人の者と神の御心によりまして不束ながらも或漁村に働く事になりましたが、私は其の地に香ばしき匂を放つて咲ける美しい白百合を愛讀者皆々樣に御知らせ申度いと思ひまして走らぬ筆をも顧ず申上ぐる次第で御座います、美しの白百合と申しますれば云ふまでもなく心の清麗なことを申度いので御座います、即ち單純な無邪氣な、惡氣のないさつぱりした心をで白百合に譬えて申度ので御座います、私は他の白百合の事に付きては何も申上げません。只此漁村に咲ける二本の白百合を皆樣に御紹介致し度いと存じます、先づさきに右手の方に咲ける白百合より申上げることに致しませう、丸某と申しますれば此の村では一人として知らぬ者はないと云ふ風で名の知られて居る方でこの村の役場に勤めて居らるゝ方であります。六日の間職務の爲に御働きなさいまして御疲れの身をもいとはず日曜日は教會の爲信者の爲御働き下されます。普通一般の人であれば今日は日曜日故氣長く休んで甘い物でも澤山食べてなど考へて居る者で御座いますが、氏は決して左樣な下劣な考へは、少しもなく御疲れの所を毎日曜日教會を助けて、御自分は教師牧師の代りになつて信仰上の御說教をなし信者各々を勵まして居られます。又御夫人も同じく教會の爲に御働き下されまして禮拜の時はオルガンを彈き或は生徒を監督していろ〳〵骨を折つて下さいます。この方は共立神學校の御出身で、丸氏に嫁せられし後も御弱身ながらも主のために御力を御盡し下さいます。なんと見事な白百合では御座いませんか、私共は大いに學ぶ點のあることで御座います。又左手の方に咲て居る花も世に珍らしい白百合でありまして美しい香を放つて咲いて居ります。[illegible]村氏の御家庭は多忙な中にも常に主をあがめ、日曜日にはわざ〳〵御仕事をよして御自分は内にあつて大勢の子供衆を守られ、御夫人を日曜學校に御手傳によこして下さいまして、男子にも珍らしい事をして居られます此の樣な家庭に成長する子供衆も中々感心なものでありまして遊び盛なるにも拘らず小さい妹子を御守りして父樣や母樣を御助けして教會に出席させて居られます。私共これを見ました時には涙がこぼ

れました。基督教の家庭はかくまで美しきものかとしみ〴〵感じました。私共はこれを見る者聞く者は不平も不滿もなく毎日喜び感謝しつゝ其日を送るべきではありますまいか。此少さな漁村にもかく美しい白百合の咲て居ることは本當に此村の誇りとする點で御座います。此村に止まらずして此れを知つた人は如何なる考をお持ちになりますか、私共はもつと〳〵主のため道のため人の爲に努力致す筈ではありますまいか、大いに考ふべき所であると思ひます。
女子青年會の夏期修養會のため雅各書第五章十五節より二十節までを讀んで朝夕祈つて居りました。

◉溫●故●片●々●

辻村靖子

○人口に膾炙す　誰れ口にも、云ひならされて賞めたゝへらるとの意。鱠はなます、肉の細く觧きたるもの、炙はあぶり肉なりそれらの肥甘の味の口に適ふことをいひたるなり。

○敵愾心　王の怒り恨みたまふところに當ると云ふ意味なり忠義の心とも逆ひ憤慨とも違ふなり敵はアタルたり、愾は怒り恨むる也

彙報

◉中央委員會

九月十七日午後四時より牛込田町本部に於て臨時中央委員會幷に財政委員會を開く。出席者は井深花子、井上友子、山田千代子、ミス、ウエスト、ミス、レーガンの五氏にて、ミセス、フイッシャー及津田梅子兩氏よりは各其意見を開會以前に通告し來れり。井上友子氏の祈禱をもつて開會。

當日の議題は紐育市合衆國女子青年會本部より同會幹事養成所に於て當冬を過すやう河井總幹事を招待し來れる件にて、これに就ては河井總幹事が一層青年會幹事としての新しき修練と研究を積まるゝは好ましきことなるのみならず、且青年會事業を深く研究する傍ら日本人移住問題と共に紐育市に於ける諸種の社會事業を視察研究するに最も逸すべからざる好機會なるを以つて河井總幹事が右招待に應じ來春迄合衆國に滯在するを承認する事を可決せり。

◉女子青年會各支部の狀況

左に揭ぐる報告は去る夏期修養會協議會の席上にて各支部の代表者の報告せしものなり。

▲**札幌女子青年會**　毎月第一日曜日に例會開催、此の例會の主意は例へば第一月は祈を主とし、第二月は講話、第三月には奬勵を主となすが如し。六月二十二日井深博士、大森光子氏御來札せられしにつき女子青年會大會をひらく。來會者三百三十名、兩講師の御力に依り數十名の求道者を出せり、實に有益なる會なりき。聖書の組は目下二組なれ共近き將來に於て、後二組を增加すべき計畫なり。働部は五月以後發展の兆を示せり。

▲**青山女學院青年會**　私共の青年會はまだ仲々行先きが永うございますけれどもあらましの近況を御知らせ致します。昨年の九月に從來は青山女子手藝學校として獨立した青年會をたてゝ居りましたのが青山女學院の青年會に合併致しました、そして全校の青年會のうちを四部に分けました。即ち專門部生を一部、高等女學部の上級を二部、下級を三部、手藝部を四部と致しました。全體は宗教部、傳道部、矯風部、勸誘部、社交部に分ち、傳道部の働としては日曜學校を敎へて居ります、私共の青年會では目下七つの日曜學校をもつて居ります。喜ばしい事には昨年の九月から今日までに會員と學校との協力によりて七十餘名の受洗者を得ました、そしてその多數は會員となりました。

收入としては手藝部で金曜日の夜二時間づゝをいろ〳〵の細工物、例へば刺繡とか袋物とかを製するために費し、又花を栽培してこれを病人に贈り或は賣つたり致して居ります。青年會の働きの一つとして學校の繪葉書を賣り、或は電車の回數劵を買ひ置きて寄宿生の外出日などに、これを普通往復劵の價で御ゆづり致します。回數劵一冊としては僅かの利で御座いますけれど何冊にもなりますと可成り多くの利を得るで御座います、集金は木曜と日曜日に致

します。木曜日は主に通學生のため日曜は寄宿生のためで御座います、それから一ヶ月に一回づゝ青年會本部の委員方、又は其他の名士を御願ひしては講演を伺つて居ります。尤も共同傳道などのあります場合には臨時に省く事も御座います、來學期は音樂會を致し度いと存じます、又從來は學校で取扱つて居りました學用品をこれから青年會で致し度いと存じて居ります。

▲**女子英學塾青年會**　バイブルクラスや毎朝の祈禱會の外少し變つた所の二三の小さな事業について申上げ度と存じます。(一)四月新入生願書が届くや否や直ちに青年會委員が手紙を新入生に出して先方の方々に白のリボンを胸にかけて頂き委員が赤のリボンをかけて停車場に上京される日、迎へに行き宿の世話などをしてさし上げます、又愈々入學試驗に合格されると本の御世話や買物の案内などを出來る丈致します、此れに依つて地方の青年會あるひは基督教を誤解し偏見を有して居られる人々の心を解く事が少なからずあるやうに思ひます。(二)日常の學用品販賣の他テーブルクロース、ナプキン、ハンカチーフ、人形等を勉强の暇々に有志者に作つて貰ひ是を西洋の方先生又は生徒の知人等につとめて賣り僅かながらその利益をもつて、慈善の爲、青年會本部の爲、學校青年會のため等に用ひて居ります。先生又は知人で英米に御出での方々には是等をもつて行つて頂き少し高く賣つて頂くやうにして居ります(三)夏期休暇の様な長い休みには手紙傳道と申すものをつとめて居ります。委員が定まつた姉妹を特別に責任をもち手紙で道を傳へ、彼れ等のために祈つてひたすら彼等の爲傳道を致します。休暇には又ハンカチフ、ナフキン等半ダース或は一ダース有志者に作つて頂くやうに願つて居ります。共に見るべき結果がございます。(四)寄宿舍では小使の小供等を日曜學校につれて行きましたり、又運動時間などには成る可く容易い話をしてやる事に致して居ります日曜日は生徒の集會(自午後七時至同八時)の後一時間學校内に

御出の先生方の女中寄宿舍の女中等合せて七八人の爲に神樣の御話をしたり讃美歌をうたつたり祈つたり致しまして、女中等と共に樂しい時間を過します此れによつてともすれば外觀にのみ心を用ひがちの女中間に精神的の清い話が流れて使ふ者も使はるゝ者と共に清い生活に入るやうになりました、既に八人中三四人は洗禮を受け度いと熱心になつて居るものが御座います。

▲横濱フエリス女學校青年會　私共の青年會の報告としては新たに申上げる事も御座いませんが現在會員の總數は二百餘名ほど御座います。青年會の主なる働きとしては日曜學校を致して居ります、昨年のクリスマスの時はその費用を集める爲に只校内のみにて音樂會を開き二十圓近くの利益を得ました故、子供等にいろ〳〵の好い贈物を致したり又樂しく遊ぶ事が出來ました、その他小さな働きとしては廢物利用を致しまして古い繪葉書や又きれくづをあつめて小さい人形を拵らへたり青年會費をたすけて居ります、其他先生方をはじめとして生徒の中にて裁縫や編物などを望みにしたがつて致しその利益を青年會のために用ひて居ります。學校では毎週青年會の御集りを大小に分ちて交る交る致して居ります、特に小さい集會の時は全校の生徒を小さい組々に分ちて、一組を七八人位にして一人づゝの責任者がそれを保ち導くやうになつて居りますが、これを致すやうになりましてからは以前より良い方に傾いて來たやうに思はれます。其他毎月第一の金曜日と最後の金曜日には夕方集會を開きます。何卒皆樣益々この會の發展致すやう御祈り被下るやう願ふもので御座います。

▲宮城女學校青年會　(一)嘗て計畫致して居りました販賣部を昨年九月からいよ〳〵設けまして日用品及學用品を販賣致して居ります。(二)今年二月五六七の三日間宮城女學校講堂に於きまして第二回東北修養會を開きました、河井道子先生、外村義郎先生三谷民子先生が東京から御來仙下され、又仙臺聖公

會の稻垣先生が御出で下さいまして御講演をして下さいました。聖書の組も二つありました、一つは求道者の爲にて外村先生、一般學生のために河井先生に御願ひ致しました。遠近各地方から御集りになつた姉妹方も大勢ありまして大層盛でございました、殊に信仰の道に入らうと決心された方が四十五名もありました、その内三名は男子でした。(三)昨年から花を植えて病院に贈る計畫を致して居りましたが一學期中には未だあまり咲きませんでしたので休の日に委員が三四名で山に參り鈴蘭や忘れな草等奇麗な花をとつて數回宮城病院の施療患者に贈つて遣りました。(四)今年の春の遠足のとき南京豆を賣つて純利益六圓を得ました。(五)今學年中には音樂會を致し度いと計畫中であります。(六)日曜日の午後一時から三時まで校庭を開放して近隣の小供を自由に遊ばせ、委員が二人づゝ監督致し又讃美歌を敎へたり、話を聞かせたり致します。(七)日曜日の午後下級生に本を讀んでやつたり、讃美歌を敎へてやつたり致します。

▲●●●●●●●

廣島女學校青年會　四五年前までは、四五人の朝鮮人の留學生に學資を給して居りましたが其後數年は仕事も微々としてこれと云ふ働きが出來ませんでした、けれ共來る九月からは何か大きい仕事をしたいと思ふて、此の春から其計畫をして居ります。此度諸青年會の御報告を承はつて大に得る所あつて力となりました。

●●●●●●●

▲横濱女子青年會　集會の主なるもの、月、水、兩日英語の組。火、英語研究。木、舊約書講義。土、新約書講義幷に小供英語の組。近處につとめて居る婦人方が晝食の爲毎日御出でになります、又ピヤノのお稽古を今度はじめました、タイプライターの練習に來らるゝ方も多くあります。又外國行の方を送迎のため、或は横濱へ買物に來られて休息のため立ち寄らるゝ方多し、當會員は心より皆樣の御出でを歡迎致します。渡米婦人心得、在米日本人基督敎女子青年會案内なる二種の印刷物を作り之を船中にて

配布し、渡米婦人のため種々の便宜をはかります。依つて御渡米の方に横濱女子青年會の御紹介を御願ひ申上げます。

▲**神戸女學院青年會**　新らしき働きの一つに就きて報告せば、昨年の修養會の標語はヨハネ十五〇十六『汝等我を選ばず、吾汝等をえらべり、且汝等をして行きて實を結ばせ、其の實を保たせんがため』云々と、私共代員として來て居りました六人の者は迎ふる修養會即ち今日までには何か實のある働を始め度いと云ふ事を決して一心に其を願望として歸校致しました、それより段々と私共の熱心は全會員にもえうつり、遂に一つの新らしい事業に着手いたしました。其働きと申しますのは未だ誰もこれに着手して居ない、只佛教の僧が時々行つて說教せられて居ると云ふ、神戸の電話交換手の間に主の道を擴める事で御座いました。第一致しました事は昨年の秋の祭日の一日を利用して交換手の一部分の方々をお招き致しまして慰勞會を催しました、それを初むるに當つて私共の經驗なき小さき心は一方ならぬ心配を致したのであります。果して私共のなさんとして居る事が受け入れらるゝや否やと、然し遂に直接に私共が局長に面會して其の旨をはなしました處案外にも非常によろこんで受け入れられましたので私共の元氣は一倍したので御座います。慰勞會の日は午前は林歌子女史に有益なる御話しをして頂き、午後は御互ひに手に手をとつてほんとに樂しく親睦いたしました。是を手蔓としての隔週日曜日その人々のために私共の院内にて日曜學校を開いて居ます。參る者は十人程で其内二人は信者で御座います。これらの人々の内に眞にキリストに歸依するものが多くなりましたら社會改善に貢献する處は少なくないであらうと大に望みをもつて致して居ります。

●米國羅府日本人女子青年會

雜誌『女子青年界』每月御送り下され誠に有り難く

御禮申上げ候、遠く異郷の地に在りては母國の雜誌を殊に『女子青年界』を拜讀致すのが何よりの樂しみに候、一週間もたゝぬにはや讀み終り次號の到着を待ち望み居る次第に御座候。雜誌にて拜見致す處皆樣にはます〳〵御壯健にて御國建設のため御盡しあそばされる由何よりの事と嬉しく存じ候。當市には南加基督教女子青年會御座候へども創業日未だ淺く會員も百餘名に過ぎ申さず候、されど常に天助を仰ぎつゝ、ミス、タピング大谷幹事を始めとして皆々熱心に勵み居り候へば必ず盛んになる事と信じ居り候。去る六月には河井先生御出で下され度々御講話なし下され、又會の發展のため東西に御奔走遊ばされて、御盡力下され會員一同大いに感謝致し居り候。（田中盛子）

消息

○エルキントン氏　新渡戸博士夫人の兄君なる同氏は暫らく日本に來游中なりしが八月上旬春洋丸にて歸米せらる。

○ミス、エマソン　今回紐育市女子青年會幹事養成所を卒へ本會新幹事として九月十二日來朝、本部內に住居せらる。

○ミス、ベーカー　永らく不快なりし同幹事はいよ〳〵全快せられ九月中旬より横濱に歸任事務を執らる。

○井上ちとせ子　暫く本部の事務を手傳はれし同姉は今回讃岐丸龜市縣立高等女學校へ赴任。

○ミス、マクロイ　九月より麴町區三番町東京女子青年會內に住居せられ、新會館工事落成と共に開かるゝ體育部に於て體操を敎へらるゝ筈なり。

○藤井敬子　東京青年會々員なる同姉は八月中富士見町敎會に於て受洗せられ、九月中旬大阪府立市岡高等女學校へ赴任。

○粕谷よし子　同東京青年會々員なる同姉は九月十二日千駄ケ谷敎會に於て受洗。

○多賀艶子　永らく病氣にて輕井澤に靜養中なりしが殆ど全快せられ、九月中旬尙靜養のため歸郷。

○宮川すみ子　七月中大江玄壽氏と結婚。

○高倉初子　本會々友高倉壽子姉愛孃なる同姉は九月六日永眠さる。

○蟹江季子　東京青年會々員蟹江操子姉令孃なる同姉は豫て病氣中なりしが藥石効なく遂に九月十四日逝去せらる。

本會は右二姉に對し謹みて哀悼の意を表す。

○會友申込（本部報告）

（普通）中村瑞子　三橋梶子　三浦盛世子

（維持）伊藤　子

○會友會費領收 （本部報告）

金壹圓也

中村瑞子（大正四ノ九ー五ノ八）　三橋梶子（大正四ノ九ー五ノ八）
堀部㘴會（大正四ノ四ー五ノ三）　三浦盛世（大正四ノ九ー五ノ八）
關根松子（大正四ノ七ー五ノ六）

金貳圓也

加藤久子（大正四ノ十ー五ノ九）　伊藤子（大正四ノ九ー五ノ八）

○雑誌『女子青年界』代金領收

金七拾錢也

吉見文子（大正四ノ七ー五ノ六）　鹽野光江（大正四ノ八ー五ノ七）
林　高野（大正三ノ七ー四ノ六）　御木たに（大正四ノ十ー五ノ九）
寺西もと（大正四ノ四ー五ノ三）　渡邊和子（大正四ノ一ー四ノ十二）
佐藤かつ（大正四ノ十ー五ノ九）　今　ひさ（大正四ノ一ー四ノ十二）
井口やめ（大正四ノ四ー五ノ三）　五十貝晴子（大正四ノ四ー五ノ三）
西井岸子（大正四ノ五ー五ノ四）　河東田きい（大正四ノ六ー五ノ五）
朝比奈米（大正四ノ五ー五ノ四）　瀧澤とみゑ（大正四ノ三ー五ノ二）
岩崎優子（大正四ノ一ー四ノ十二）　千原助五郎（大正三ノ十二ー四ノ十一）
兒島のぶ（大正四ノ一ー四ノ十二）　春日さく（大正四ノ四ー五ノ三）
高橋久與（大正三ノ十二ー四ノ十一）　小　林（大正四ノ八ー五ノ七）

金壹圓貳拾錢也

ミスタヒング（大正四ノ四ー五ノ三）富山ふく（大正四ノ四ー五ノ三）
河井夫人（大正四ノ七ー五ノ六）　竹川八重（大正四ノ四ー五ノ三）
田中きゑ（大正四ノ四ー五ノ三）　田中しを（大正四ノ四ー五ノ三）
三上夫人（大正四ノ七ー五ノ六）　三浦滋世（大正四ノ三ー五ノ二）

金壹圓四拾錢也　山　川　巖（大正四ノ四ー五ノ三二部宛代）
同　廣島女學校（大正四ノ一ー五ノ十二）
金壹圓也　愛澤よし（大正四ノ五ー五ノ八）
金貳拾八錢也　松井かつ（大正三ノ十ー四ノ一）
金貳拾壹錢也　堀尾禮子（大正四ノ一ー四ノ三）
金拾四錢也　北川苗榮（大正四ノ二ー四ノ三）
金四拾貳錢也　長井きみえ（大正四ノ一ー四ノ六）
金六拾參錢也　小野やす（大正三ノ七ー四ノ三）
金參拾五錢也　岩崎うめ（大正四ノ六ー四ノ十一）
金七拾五錢也　細田しめ（大正四ノ九ー五ノ八）
金壹圓四拾五錢也　中村玉子（大正四ノ五六月分十冊宛代）
金貳圓也　島田萬次郎（大正四ノ六ー五ノ十二）
金四圓也　加納夫人

日本基督教女子青年會支部及其他位置

東京基督教女子青年會	東京市麴町區三番町四一
廣島女學校青年會	廣島市上流川町
同志社女學校青年會	京都市上京區今出川通
プール女學校青年會	大阪市西區川口町一二
ウキルミナ女學校青年會	大阪市東區玉造
札幌女子青年會	札幌區北四條北星女學校内
宮城女學校青年會	仙臺市東三番町
クリスチアン女學校青年會	宇都宮市二條町七二
フエリス女學校青年會	横濱市山手町一七八
共立女學校青年會	横濱市山手町二一二
女子英學塾青年會	東京市麴町區五番町一六
女子學院青年會	東京市麴町區上二番町三三
青山女學院青年會	東京市青山南町七ノ一
女子傳道學校青年會	東京市小石川區指ケ谷町八四
神戸女學院青年會	神戸市山本通四丁目
金城女學校青年會	名古屋市東區白壁町四丁目
盛岡女子青年會	盛岡市内丸タピング方
德島女子青年會	德島市富田浦仲町ミスリフン方
横濱女子青年會	横濱市本町五一
捜眞女學校青年會	神奈川一本松
弘前女學校青年會	青森縣弘前市代官町
東洋英和女子學校青年會	東京市麻布鳥居坂八
梅花幼稚園保姆傳習所青年會	信州上田丸堀
第一寄宿舍	東京市牛込區納戸町四五
第二寄宿舍	東京小石川區水道町六(安藤坂)
好友園(幼稚園)	東京市小石川區金富町五七
旅行者の友事務所	東京市本郷湯島天神町一ノ二四

National Committee

Headquarters. 12Tamachi Sanchome, Ushigome, Toky

Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss Tami Mitani, Secretary
Dr. Tomo Inouye, Treasurer
Miss Michi Kawai,

Active Member World's Committee

Resident Members	Non-Resident Members
Miss Ume Tsuda	Madame Asa Hirooka, Osaka
Miss A. B. West	Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss Uta Suzuki	Miss M. F. Denton, Kyoto
Miss Kita Hasegawa	Miss Michi Matsuda, Kyoto
Miss Sarah Ellis	Miss Yoshi Kajiro, Okayama
Miss Chiyo Yamada	Miss K. Tristram, Osaka
Mrs. E. W. Clement	Miss Susan Searle, Kobe

Secretaries

Miss Michi Kawai, National
Miss A. C. Macdonald, National,
Miss Ruth Ragan, National Office
Miss Margaret Matthew, General, Tokyo
Miss Mary Page, Associate, Tokyo
Miss Emma Kaufman, Associate, Tokyo
Miss Mary Baker, General, Yokohama

大正四年九月廿八日印刷納本
大正四年十月一日發行

本誌定價	
一部(郵共) 金七錢	一ケ年分 金七拾錢
海外 金拾壹錢	金壹圓廿錢

廣告料	
一頁 金六圓	半頁 金三圓五十錢
四分ノ一 金貳圓	一行 金貳拾錢

發行所 日本基督教女子青年會 東京市牛込區田町三丁目十二番地
編輯兼發行人 河井道子 東京市牛込區田町三丁目十二番地
印刷人 前川治次郎 東京市芝區櫻田和泉町七番地
印刷所 三成舍 東京市芝區櫻田和泉町七番地

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(Joshi Seinen Kai)

Volume XII October, 1915 Number 9

The opening of the new Tokyo Y.W.C.A. building at 14 Kita Jimbocho, Kanda, will take place during the week of October 18, during which time the Association will keep open house. The formal opening meeting will be held on the afternoon of October 18. On the 20th the meeting will be especially for the women's societies of the churches of Tokyo. The day of Saturday, October 23, belongs to the students. That evening is planned especially for the girls in offices and stores.

The dormitory in the building will also be opened at that time. There is accommodation for sixteen girls, two in a room, and it is hoped that the rooms will be taken specially by teachers.

During the week of the opening the announcements will be made concerning the various classes which are being planned for, domestic science, English, music, Bible, gymnastics. Special classes in gymnastics for foreigners will be arranged for afternoon and evening. A class for foreign children will probably be arranged for Saturday morning. The Tokyo Association will be glad to have the building used by clubs, societies, etcetera for their meetings.

All inquiries and applications should be made to Miss Matthew, 41 Sanbancho, Kojimachi.

The Association is rejoicing in two new secretaries, Miss R. N. Emerson of Cincinnati, Ohio, a graduate of Wellesley College and of the National Association Training School; and Miss Taka Kato, graduated from Miss Tsuda's English School and from the National Association Training School. Miss Kato will be a secretary in the Tokyo Association with which she was connected before she went to the United States to study. Miss Emerson is attending the Japanese Language School.

Miss Michi Kawai, national secretary of the Association in Japan, who spent the summer months on the Pacific Coast studying the immigration question as it concerned Japanese women, has been invited by the National Board of the United States to spend the winter in the National Association Training School. Although Miss Kawai has had various duties in connection with the World's Association as well as with the Association in Japan, she has never had any training for the regular work of the Association. Therefore this invitation comes as a tremendous opportunity not only for Miss Kawai herself but for the National Association of Japan with respect to its future growth and development. At a recent meeting of the National Committee Miss Kawai was asked to accept the generous invitation of the Association in the United States. While Miss Kawai is in New York she will also have an opportunity to study the immigration work in that city and the methods of the Association in dealing with it, besides the social work along other lines.



女子青年界第拾貳卷第九號

大正四年九月廿八日印刷納本 大正四年十月一日發行 明治卅七年五月七日第三種郵便物認可